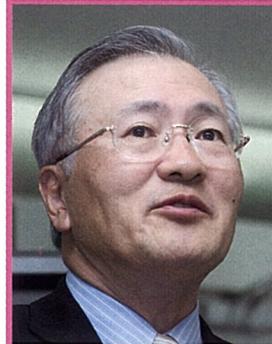


# 多摩大学 rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



中谷 嶽  
Iwao NAKATANI  
多摩大学 学長

## Monthly Message 26

### これから受験の年を迎える高校生へ

受験の年を迎える高校生にとっては憂鬱な1年がやってきました。勉強に明け暮れる1年なんて耐えられないという人も多いでしょう。

しかし、重要なのは、気持ちの持ち方です。どちらみち逃げられないのが受験だとすれば、「受験」を人生の一時期における格好の「勉強集中期間」と考えることはできないでしょうか。「受験」を否定的にみるのではなく、腹を決めて前向きに捉えるのです。「勉強しなければいけない。いやだな」という気持ちで嫌々勉強しても能率は上がりません。

「いろいろやりたいことはあるけれど、この1年間に限定して、基礎的な勉強に集中しよう」と割り

切ればよいのです。1年間、がむしゃらに基礎を勉強することで、諸君が将来、本当にやりたいと思うことを実行する際の基盤ができるのです。この割り切りさえしっかりできれば、意外なほど勉強が苦痛でなくなります。本當は、「何のために自分は勉強するんだろう」「自分はどんな人生を送るべきなのだろう」といった、もっと哲学的なことを皆さんには考えてほしいのですが、中途半端はいけません。

人生はマラソンと同じ。この1年は勉強集中時間、大学に入ったら、本当の思索、本当の学問が好きなだけできるのですから…。

## PROJECT

### 「自己発見」 自分探しの旅へ、内容をさらに充実

2004年4月、3年目を迎えた多摩大学のオリジナル授業「自己発見」が内容をさらに充実してスタートします。

自己発見では「自分は何のために大学に入ったのか」「自分の人生の目的は何か」「社会と自分の関係をどう理解したらよいのか」といった学問をする上で最も重要な事を自ら発見し、実践していきます。自己発見は大きく2つのパートから成り立っています。一つ目はフィールドワーク。7人程度のグループを形成し、自らの足で歩き、その目や耳で社会の抱えるさまざまな問題を発見し、その解決に向けた提案・提言活動を実際にやっていきます。昨年は自己発見の活動の中から「留学生との交流サークル」が発足するなど、社会の注目も集めました。二つ目のパートは「知識を得るために智恵」を身につけることです。今まで避けてきた「家族」や「国」などのテーマを徹底的に討論することによって自らの立ち位置を確認して、大学で学ぶ意義を再確認していきます。

2004年度はもっと自己発見を追求したい学生

のための「自己発見II」や、その道の「プロ」を招き、「生き方」「考え方」を共有する特別レクチャーなどが用意されています。この多彩なプログラムをバックアップするため、自己発見には二年生以上の多くの学生がアシスタントスタッフとして授業をサポートします。今年からはまだサポートするだけでなく、「プロジェクトゼミ(内容は次の記事をご覧ください)」に参加し、アシスタントとしての能力を向上させていきます。

このように学長、教員、アシスタントスタッフと学生が真っ正面から自己発見に向かい合い、新たな自己発見への道を創り上げていきます。

### ゼミ中心大学へ新たな試み 自己発見プロジェクトゼミ始動

2004年4月、多摩大学の新しい試み「プロジェクトゼミ」が始動しました。プロジェクトゼミとは学生や教員がある事柄について問題を提起し解決・提言を行うため、1つのプロジェクトを成し遂げるためのゼミで、従来の一つの学びを徹底して追求する「ホームゼミ」とは異なり、一つの目的に向かって突き進む多摩大学の新しい「プロジェクトX」です。

2004年度は杉田文章助教授による「自己発見アシスタントプロジェクトゼミ」が始まります。1年生必修授業「自己発見」には2年生以上のアシスタントスタッフがフィールドワークや授業自体をサポートしてきました。今年からはこのゼミを通じて自らの自己発見の経験を1年生に伝えるだけでなく、アシスタントスタッフ自身の問

題解決能力、グループダイナミズムにおけるリーダーシップ、チームマネジメントなどの能力開発を進めるとともに、実際に中谷学長に自己発見プログラムの新しい提言を行なっていきます。

2004年3月末から4月初旬にかけて3日間、品川キャンパス(品川インターナショナルスクール27階)でプロジェクトゼミの事前研修会が行われました。約30名のアシスタント候補生が集まり、熱い討論が繰り広げられました。前年度までの自己発見アシスタントの反省や、新しいプログラム、フィールドワークチームのサポート方法など自己発見に関する問題を学生の視点から教員にぶつけ、学生のための自己発見はどうあるべきかが話し合われました。

最終日の4月2日には中谷巖学長、野田稔助教授も参加し、「自己発見」とはどうあるべきか、アシスタントスタッフはどうあるべきかについて意志統一が図られ、アシスタントスタッフのメンバーは同じ目的に向けて気持ちを新たにしていました。

2004年度は自己発見プロジェクトゼミの1つだけが立ち上りましたが、今後は様々なプロジェクトが立ち上がり、新しい多摩大学のゼミの姿となると思われます。



2003年度の自己発見「がちんこ討論」の様子



中谷学長が自己発見について語る

## NEWS

### 入学のつどい行われる

2004年4月5日多摩大学大教室にて第16回入学のつどいが開かれました。

式典では今泉忠学部長より新入生382名全員の名前が呼び上げられました。中谷巖学長からは「全員の名前が呼べるのは多摩大学だけ。これは多摩大学の教育姿勢の表れなのです。全員とできる限り対応したい。学生と教員が一緒にになって人間的な成長をしていきましょう」と挨拶がありました。

新入生代表の古澤友香さんは「自分から行動いろいろなことに挑戦し、努力してこそ得ることができます。それはどこにいても変わらない大切なことだと思います。私は勉強にゼミに大いに励み、自分の可能性にチャレンジしたいと思います」と抱負を語りました。



これから4年間の抱負を語る古澤友香さん

### 卒業のつどい行われる

2004年3月20日(土)、多摩大学大教室にて卒業のつどいが開かれ、284名が学窓を巣立った。

卒業生代表のお礼の言葉として曾根貴子さんは「多摩大学の4年間を誇りに思います。ロボットコンテストで作品が動いたときの喜びは大きいものでした」と思い出を語りました。式典の最後には今泉忠学部長から「あきらめたらあかん！」と卒業生に大きなエールが送されました。

### 天津財経大学への留学始まる

2003年10月に学生の相互交流について協定書を交わした、中国・天津財経大学に、4人の多摩大学生が留学を開始しました。4年生1人、3年生3人が、2004年3月1日から始まった春季学期に、まず語学研修生として入学したものです。

学内にある国際交流センターに宿泊し、他国からの留学生と一緒にヒアリング、会話を含む中国語、商業中国語、中国文化などを学びます。授業についていくる語学力があれば、その後に本科生として会計学、金融学、マーケティング学、経済学、

中国経済通商、工商管理学、情報管理、経済貿易英語などの科目を履修する道も用意されています。もちろん、単位互換による単位認定も行われます。春季学期は7月上旬に終了し、9月初旬から秋季学期となります。秋季学期には、さらに2人の多摩生が留学を予定しています。

### オフィス学会開かれる 多摩大学の品川キャンパスを公開

日本オフィス学会(会長:沖塩莊一郎 東京理科大学教授)第5回大会 開催テーマ「オフィスルネッサンス21」が、多摩大学で開催されました。

大会第1日目となる2004年2月27日には、多摩大学の品川キャンパス(品川インターナショナルタワー27階)を会場とし、当初の予想を上回る100名余りの方が参加。品川キャンパス内とインターナショナルタワー内部の見学会も行われ大変好評でした。

2日目28日、多摩キャンパスでの本大会には、産業界・実業界・学界から230名もの参加がありました。中谷巖学長・今泉忠学部長・河村幹夫研究科長らの講演のあと、各研究部会ではこれまでの取り組みと研究成果が発表され、熱心な討議が行われました。参加者からは、多摩大学のさまざまな新しい取り組みや、施設の充実さを実感したという意見が多く聞かれました。

## TOPIC

### 多摩大学経営情報学部 2004年度入試結果

2004年度の多摩大学の入試がすべて終了しました。志願者総数は1,528名となり(詳細は下表参照)、昨年度比で128%の増加となりました。少子化が進み、大学受験人口が減りつつある中、「自己発見」や「イングリッシュシャワー」、「ゼミを中心とした大学構想」など、積極的に大学改革をはかり、大学選びの新基準を打ち出す多摩大学の教育理念が広く浸透してきた結果といえるでしょう。大学選びで重要なのは、単純に「有名校だから」「偏差値が高いから」という表面的なものではなく、自分の人生にとって「何が得られるのか」をしっかりと

と考えることにあります。多摩大学は自分の将来や適性をしっかり考える受験生の期待に応えるべく、専門知識以外にも、自分の生き方、学び方を「徹底した少人数による手づくり教育」の中で身につける場として、一人ひとりを徹底的にサポートしていきます。

### 2004年3月卒業生就職結果 就職内定率97.9%

2004年3月卒業生の全国の大学生の就職内定状況は企業の厳しい経営環境を反映してか、2003年12月1日時点で史上最低の数字(73.5%)になっています。

このような状況下で、多摩大学経営情報学部の4年生の就職内定率は、97.9%と例年通りの好調ぶりを示しています。就職希望者一人ひとりを最後まで面倒を見るという多摩大学ならではの就職指導が実を結んでいるといえるでしょう。

<2004年3月31日現在>  
2004年3月卒業生数284名、就職希望者数241名、

就職内定者数236名、内定率97.9%

主な就職先: am/pmジャパン、JTB情報システム、NTTデータ、秋田銀行、旭化成ホームズ、ウシオ電機、エイブル、オリエンピア、近畿日本ツーリスト、コミュニケーションズ、サトー、巣鴨信用金庫、住商情報システム、スルガ銀行、セコム、セブン-イレブン・ジャパン、ソニーサプライチェーンソリューション、高砂香料工業、日本コムシス、日本食研、日本ヒューレット・パッカード、フォスター電機、ブリヂストンソフトウェア、フロムソフトウェア、ユニマットオフィスコ、菱友計算 他

### 全国高校生／多摩地域大学生対象 ループ・ゴールドバーグコンテスト開催

多摩大学齋藤ゼミは、ループ・ゴールドバーグ社の許可を得て、日本初の「ループ・ゴールドバーグコンテスト」を実施します。第1回のテーマは「10段階以上の過程を経て国旗を描こう！」です。エントリーは4月20日(火)まで。本番は8月22日(日)です。詳細はホームページをご覧ください。  
URL: <http://www.edu.tama.ac.jp/rgc/>

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷 巖

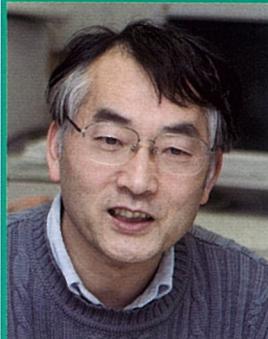
### 多摩大学のユニークな授業「自己発見」

受験勉強で明け暮れる高校3年生には、「何のために勉強するのか」「人生の意義とは何だろうか」といったことを考える余裕はなかなかないでしょう。多摩大学では新入生全員に、「自己発見」という授業に参加していただき、自分自身の人生のあり方についてじっくりと見つめ直していただきます。目的のない人生なんてつまらないし、すべてはある種の「気づき」から始まると考えるからです。学長である私自身が若い先生方とともにこの授業に情熱を傾けるのはこういった信念からです。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rappo/>までどしどしお寄せください。

# 多摩大学rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



今泉 忠  
Tadashi IMAIZUMI  
多摩大学  
経営情報学部 学部長

## Monthly Message 27

### プロジェクトゼミ提案募集！

要であるという考え方からカリキュラムを編成してあります。

今年度の科目でプロジェクトゼミが開講しています。これも学生の方から、このようなことをしてみたいと提案されて実現した科目です。ある意味で、学生の方から「このようなことを勉強してみたい」という提案がきちんと出てくるようになったならば、大学教育の目的のうち、半分は達せられたと思っています。これが片方の車輪とすれば、もう一つは、このような「学び、考える」ために必要となるさまざまな事柄についての大学での基本的な学力ではないかと思います。

学生の皆さんから、来年度開講に向けたプロジェクトゼミ案で出てくることを期待しています。

「大学は、教わるのでなく学ぶ場であり、学生には、答えがひとつではなく、自ら解決する力を身につけてほしい」と言われています。キャンパス内でグループディスカッションしたり、勉強したり、ラウンジで先生と話し込んでいる新入生の皆さんを拝見すると、それぞれの「学ぶ方」を見つけているなと思い嬉しく思います。

2年生の皆さんは今年度からのカリキュラムを見て、大学で学ぶための基本科目が充実していることに気づかれると思います。多摩大学が促進している「現代の私塾」構想を学部教育で実現するために「ゼミ中心」教育を実施しますが、学生の皆さんのが多様なゼミで多様な学びを修得するために、基本科目の修得が必

## PROJECT

### 「イングリッシュシャワー」 毎朝1時限目に英語のシャワーを浴びる！

2004年4月、3年目を迎えた多摩大学のオリジナル授業「イングリッシュシャワー」が内容をさらに充実してスタートしました。

イングリッシュシャワーは「英語コミュニケーション能力」と「異文化理解」を身につけることを目標としています。TOEICにより英語力別の23人程度のクラスに分かれ、様々な国の先生によって日本語厳禁の授業が火曜日から金曜日まで、毎朝行われます。

1年次はコミュニケーション能力を身につけるためにスマートトークやディスカッション、英語で自分の考えや意見を表現するためにスピーチプレゼンテーション、リーディングマラソンなどが行われます。2年次はESP(経営情報の基礎となる専門的・実践的な英語)を使いこなせるように英会話能力を発展させていきます。それぞれ学年末にはプレゼンテーション大会が行われ、身につけた英語を使って1年生全員の前でプレゼンテーションを行います。



フレ授業では2年生が授業に参加しました

このように「日本語厳禁」、「毎朝1時限目に授業」と今まで体験したことのない授業にとまどう学生も多いですが、そのためのサポートも今年からスタートしました。初回には2年生数人が参加してプレ授業が行われました。プレ授業ではイングリッシュシャワーの目的や効果的な勉強法などのアドバイスも行われました。その他、ちょっとした会話や相談ができるイングリッシュチャットラウンジが用意されました。

もっと英語を学びたい人のためには、1ヶ月の語学研修留学プログラム(T-SAP)やアドバンスドイングリッシュなど、多彩なプログラムが用意されています。

### いつでもどこでもネット接続 多摩大学ノート型パソコン貸与プログラム

2004年4月7日、多摩大学新入生全員に対してノート型パソコンの貸与が行われました。

多摩大学では「いつでも、どこでも学習環境を持ち歩ける」ためにノート型パソコンを全員に貸与しています。毎年時代にあったスペックを備え、持ち歩きやすいよう軽さを重視して選定した機種を用意しています。今年の機種はIBM ThinkPad X40で約1.3kgと軽量です。また、キャンパス内全てを網羅した無線ネットワークにも標準で接続することができます。

ソフトウェアはMicrosoft Campus Agreementに加入し、全てのパソコンにMicrosoftの

主要アプリケーションの最新バージョンがインストールされています。これによりビジネスアプリケーションのExcel、Word、PowerPointだけでなくデータベース、プログラミングに必要なソフトウェアがいつでもどこでも使用することができます。

このパソコンを効果的に使った授業も多く展開されています。ゼミはもちろん、自己発見やイングリッシュシャワーの発表会の時にプロジェクトにつなげて使用したり、経営基礎IIではインターネット上のビジネスゲームに接続してリアルタイムにゲームに参加できます。

故障や分からない事にもMIC MSSの専門スタッフが対応します。

### 2004年度貸与パソコンのスペック



IBM ThinkPad X40

CPU Pentium(R)M 1GHz  
メモリ 1,280MB  
画面 12.1型 XGA TFT  
HDD 40GB  
ワイヤレスLAN内蔵  
<付属品>  
オプティカルマウス  
PCカメラ、フラッシュメモリ  
インナーバッグ



ノート型パソコン貸与の様子

自己発見に野口健さん来る！  
～富士山から日本を変える～

2004年4月19日「自己発見」第2回講義に特別ゲスト講師としてアルピニストの野口健さんが登場。「富士山から日本を変える」をテーマに自らの自己発見について熱いメッセージを伝えてもらいました。

野口健さんは25歳でエベレスト登頂に成功し、当時世界最年少で7大陸最高峰登頂を達成しています。講義の中では登山の苦労話だけでなく、過酷な登山隊でのチームワークというのはどういう事なのか、エベレスト登山というグローバルな世界の中での日本がどのように評価されているか、エベレストや富士山の清掃登山なぜ始めたのか、富士山を変えるためにはどうしたらいいのか、など野口さんの体験を通じたメッセージが生々しく語られました。



自らの体験談を交えて熱く語りかけてもらいました

多摩大学ルネッサンスセンター  
2004年度社会人講座始まる

多摩大学ルネッサンスセンター(品川インター シティ A棟27F)における2004年度の社会人教育が5月から始まります。3期目を迎える「40歳代CEO育成講座」の準備も順調に進み、開講を待つばかりです。この講座は日本を代表する企業の40歳前後の選び抜かれた精鋭が相集い、知的な格闘を行う一年間の「リーダーシップ」研修です。将来は文字通りCEOたる最高経営責任者になるために、「本質を見抜く力、高い志、尊敬される人間」を創り出そうとしている極めてチャレンジングな研修です。続いて「異業種企業家塾」が春コースとして初めて立ち上ります。これは30歳代半ばの管理職になったばかりの精鋭に経営者マインドをセットする3ヶ月のリーダーシップ研修です。合宿研修で毎日夜中まで議論が連続的に行われます。その他6月から「ロジスティクス戦略会議」が3期目に入ります。ロジスティクス経営とは、その組織の理想の姿はどういうものか等、メンバー間で議論を戦わせています。その成果が今年から多摩大学大学院で始まった「ロジスティクス経営コース」です。13人の合格者が学び始めています。

また7月から「経営戦略研究会」が始まります。

これは企業経営者や学識経験者をお呼びし、経営の最先端の研究を行うものです。何れも産業界と大学が連携して行うプログラムであり、年を追うごとに充実の度合いを深めています。

多摩大学大学案内2005完成  
「君は伝説をみたか？」

多摩大学大学案内2005年度版が完成しました。今年のテーマは『多摩伝説』。多摩大学には小さく光り輝く伝説が多くある。そんな伝説と一緒に創り出そう!というメッセージを込めて制作しました。

学生の声をふんだんに紹介。ゼミ中心、自己発見など多摩大学の伝説(特徴)をビジュアル豊かに伝えます。その他、就職について、サークルについてなど情報満載です。ホームページには「多摩伝説」のホームページも開設しました。



学生の声を紹介している大学案内とホームページ

## TOPIC

多摩大学特別表彰決定

2004年4月5日の入学のついでに2003年度特別表彰が行われました。特別表彰は社会に評価された多摩大生の活動を表彰するものです。

今年はIVRCに6年連続全国大会出場を果たし全国大会2位、フランス招待まで受けた出原ゼミ「タスマニア」と自己発見の活動を通じて留学生との交流を深め、新聞などにも大きく紹介された「自己発見18班」が表彰されました。

多摩大学経営情報学部  
オープンキャンパス情報

今年のオープンキャンパスのテーマは『多摩伝説の全て』。「自己発見」や「イングリッシュシャワー」など、多摩大学の生き方、考え方教育や、経営情報学の面白さを実感できる模擬授業を始め、学食体験、キャンパスツアーや入試相談など盛り沢山の

内容でご案内します。また「多摩大ゼミ博2004」も開催。教員やゼミ生による展示、実演を通して教員と学生のコミュニケーションを重視する多摩大学ならではの少人数制授業をいち早く体験できます。開催日は以下の通りです。

<オープンキャンパス>

7/17(土)、9/25(土)の13:00~17:00

8/10(火)、8/22(日)の10:00~17:00

<多摩大ゼミ博2004>

6/26(土)、9/18(土)、10/16(土)

いずれも13:00~17:00

詳細は本学HPのイベント案内をご覧ください

URL: <http://join.tama.ac.jp/experience/>



2003年度オープンキャンパス交流会の様子

学生・教員・職員が三位一体に連携  
4年生就職活動本格的に開始

現在4年生は毎日のように“企業セミナー→筆記試験→面接→面接…”という就職活動のサイクルの真只中にいます。今年の企業の採用環境は前年に比べ好転し、各社とも採用予定人数は増加傾向にあります。しかし、合否の分かれ目になる選考基準は依然として高く設定され、学生にとってはなかなかそれをクリアできないでいるようです。今年も、ゴールデンウィークを境に多くの企業は第一陣の「内定出し」を行い、6月~7月上旬を目処に、一般事務職を含めた予定の採用数確保を目指すものと思われます。

一方、多摩大学の就職状況は、3月下旬から“内定”を獲得し始め、順調なスタートとなっています。その内定の多くは情報サービス関連業界を中心です。精神的・肉体的に苦しい時期ですが、学生・ゼミ教員・就職担当職員が三位一体となって連携し、乗り切ろうとがんばっております。

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷 巖

### 「契約」と「信頼」の違いを理解する

旧約聖書を読んだことありますか。中川健一『日本人に贈る聖書ものがたり』はきわめて読みやすく、面白い。ここでわかることは、唯一神ヤハウェとイスラエルの民との言葉による「契約」がいかに重要かということです。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教がいずれも旧約聖書から生まれてきたことを考えると、グローバル社会ではいかに「契約」概念が重要かがわかるというものです。これに反して、日本人は「契約」の代わりに「信頼」という概念を重視しています。このことを理解することが世界、そして日本を理解するキーになるのではないでしょうか。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一言メッセージをお伝えします。多摩大学、ラボールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしあ寄せください。

# 多摩大学rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



**松浦 敬紀**  
Takanori Matsuura  
多摩大学 教授

## Monthly Message 28

### 好きなことがありますか

「好きこそもの上手なれ」ということわざがあります。好きなことを仕事にすれば、楽しい長続きします。だから上手になります。

小説『坊ちゃん』などで知られる文豪夏目漱石は、講演の中で職業は人のために行うもので、(楽しめのための)道楽すなわち好きなことが職業として成立つのは例外的なことだといっています。

しかし、それから90余年後の現代は、好きなことを誰でも職業にできる社会になりました。

楽しみのための道楽が次々と職業として成立し、好きなことが仕事として他の人たちの生活に役

立つ時代になったのです。

作家村上龍はこのことに着目しました。ベストセラー『13歳のハローワーク』で「好きでどうがいいことを職業としてみませんか」と「好き」を入口に514種の職業を紹介しています。

ただし、問題なのは、好きなことがないばかりか、何をしたらよいかわからない人があまりに多いことです。どうしたら「好きなこと」に出会えるのか、それには「好奇心」を持つこと。それが職業に近付く第一歩です。

## PROJECT

### 出原ゼミフランスへ 「ラバルバーチャル2004」に出展

出原至道ゼミが、2004年5月11日から16日にフランスラバル市で開かれたヨーロッパ最大のバーチャルリアリティイベント「ラバルバーチャル2004」に、作品「Dis-Tansu」を出展しました。

今回ラバルバーチャル2004に出展したのは2003年9月に開かれたIVRC全国大会で「Laval賞」を受賞し、招待を受けたもので、出原至道助教授と学生4名が出展のためフランスに出かけました。出原ゼミは6年連続で全国大会出場をはたすなど毎年ユニークな作品で評価を得てきました。

今回の作品はタンスの中にディスプレイと加速センサを設置して、引き出しを前後に揺らすことにより水に波が立つなど、インラクティブ性を重視した作品です。今回、日本で公開していた内容ではなく、「日本の四季」を表現したものに変更しました。引き出しを開くとそこには日本の庭園が広がって、春には桜、冬には雪が舞っています。引き出しを開け閉めすることにより庭の池の水が波立つだけでなく、風が起り桜や雪が吹雪に



タンスの引き出しを興味津々にのぞき込む来場者

なる。そんな幻想的な作品に仕上りました。

今回制作のリーダーを務めた高田泰生君(4年生)はフランスで出展できることについて、「今回最も評価されたのは“オリジナルである”ということ。また、作品に対して小さな子供まで自分の意見で感想を言ってくれることに感動しました。」と語ってくれました。

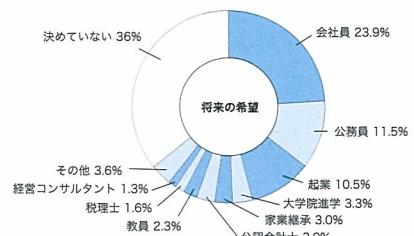
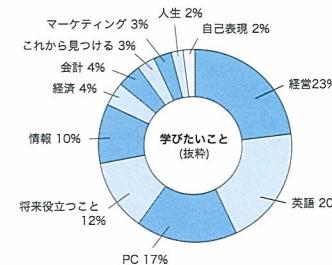
ヨーロッパという世界の舞台で堂々と作品を紹介した出原ゼミ。既に日本の展示会にもオファーされるなど注目を集めています。既に3年生ゼミ生が次の作品制作に入っており、今年のIVRCも期待がかかります。

### 新入生個別懇談行われる 学びたいこと1位は「経営」

4月21日から28日にかけて、平成16年度新入生を対象に個別懇談が行われました。昼休みと4限終了後を利用して、事務局職員が新入生一人ひとりと面談したものです。一昨年より始まったこの新入生個別懇談は、従来のアンケート形式では得られない学生の「生の声」を聞くことでより満足度の高い学生サービスに結びつけ、また教職員と学生のコミュニケーションをより密接にしていきたいという多摩大学ならではの学生サービスのひとつとなっています。

個別懇談には新入生382名中271名が参加しました。「多摩大学でどのようなことを学びたいか」「多摩大学を志望した理由」「将来の希望」などを

中心に、事務局職員と新入生が予定の時間をオーバーして熱っぽく語り合う場面も多く見られました。「学びたいこと」では経営・情報の専門分野のほか、「自己表現力につける」「ものの考え方」「英語でコミュニケーションする力」などの意見もあり、自己発見やイングリッシュシャワーにも多くの注目が集まっていることがわかりました。また、多摩大学の志望理由としては、「就職率の高さ」「少人数教育」「カリキュラム」などが上位となり、偏差値や知名度ではなく、大学の中身をしっかり調べ、自分の目的に合った大学を選ぶ傾向がますます強くなっています。



## “アジアの壁”井原正巳さん来る！

2004年5月10日「自己発見」第4回講義に特別ゲスト講師として元Jリーガーの井原正巳さんが登場。サッカー日本代表でキャプテンを務め、鉄壁の守備で「アジアの壁」と恐れられた井原さんから、リーダーシップ、プロ意識など、サッカーだけにとどまらない「生き方」について熱く語って頂きました。

大学生時代は学校の教員としてサッカーを教えていたことを想っていたことや、日本代表キャプテンとして体験した「ドーハの悲劇」について、さらには、サッカー指導者としてのこれから「夢」などが中谷学長との対談の中で語られました。講義の最後には多くの学生から質問があり、人生の先輩である井原さんの熱き「魂」に大いに震えた90分間となりました。



学生からの質問に丁寧に答える井原正巳さん

## フルブライト教育交流プログラムを多摩大が推進！

多摩大学は、2004年1月より日米教育委員会フルブライト・メモリアル基金(FMF-JUSEC)から委託を受けて、「マスターティーチャープログラム」を推進しています。故・J.ウイリアム・フルブライト上院議員の信念に基づき、1952年から始まったフルブライト交流計画は、アメリカと諸外国との相互理解を目的とした人物交流プログラムとして、世界でもっとも広く知られた権威あるプログラムです。半世紀の間に、世界中で約25万人の人々に、相手国での研究や教育を行う機会を提供し、日本でも約6800人がこのプログラムでアメリカ留学を実現しています。

FMF-JUSECによる「マスターティーチャープログラム」(MTP)は、こうしたフルブライト精神に基づき、初等・中等教育者を対象にした新しい形の日米教育交流プログラムとして、1999年より始まったものです。MTPには、春・夏期の日米教員の相互訪問、オンラインで日米共同環境プロジェクトの内容を企画し、インターネットを通じて両国の児童・生徒が共同のプロジェクトを実施する、その共同プロジェクトの締めくくりとして、国際オンライン会議で各学校が研究調査報告を

行い交流する、といった内容が含まれています。多摩大学は、このMTPの共同テクノロジープロジェクト運営の一端を担うことになりました。

## 日本行動計量学会シンポジウム 「今こそ、調査の哲学を」開催

日本行動計量学会・多摩大学共催のシンポジウム「今こそ、調査の哲学を」が2004年5月22日(土)に多摩大学品川キャンパス(品川インターナショナルタワー27階)にて開催されました。

当日は130名もの参加があり、「調査とは何か。調査の定義、そして目的は何か。」をテーマに朝日新聞社松田映二氏、統計数理研究所吉田諒三氏、ネットレイティングス萩原雅之氏、ミシガン大学 Institute for Social Research相田真彦氏による報告や、学習院大学平野浩氏、国立保険医療科学院山岡和枝氏による討論が行われました。



大盛況だった会場。中央は司会の埼玉大学松本正生氏

## TOPIC

### 大学院説明会開催のお知らせ

多摩大学大学院説明会が2004年5月27日(木)、6月24日(木)に多摩大学品川キャンパス(品川インターナショナルタワー27階 ルネッサンスセンター)で開催されます。多摩大学大学院の特徴、2004年度に新設された3つのコース(MBA、CRO、CLO)の説明を行います。また、2004年7月4日(日)にはプレ大学院講座も開催されます。申込方法、詳細は大学院ホームページをご覧下さい。

### 多摩大ゼミ博2004開催

徹底した少人数教育を実践し、「講義中心」から「ゼミ中心」への転換を図る多摩大学の2004年イベント第一弾、「多摩大ゼミ博2004」の第一回目が6月26日(土)13時から17時まで行われます。当日は高校生・受験生を対象に経営に関する身近

なテーマについて、多摩大学の教員、学生と共に少人数グループに分かれてディスカッションを行います。高校生にとって身近な商品やサービスについて、「売る」側の視点から話し合い、経営情報の先生と共に考えることで多摩大学独自の「プロジェクトゼミ」を実体験できることになります。

また数々のゼミ作品を見るツアーも行います。教員と学生が一体となって作り上げた作品や取り組んだ課題について学生が直接案内し、実際に触れたり見たりすることで多摩大学のゼミについて知ることができます。

当日は午後1時より中谷巖学長によるオリエンテーションを行い、その後ゼミ博がスタートします。お問い合わせは多摩大学フロンティアセンター入試・広報グループ(電話 042-337-7119)まで。



野田ゼミ合宿の様子。ゼミ博では実際にゼミを体験できます。

### 「現代の私塾」構想について ～多摩大学教育説明会'04～

高等学校の先生、予備校・マスコミの方を対象に多摩大学の「現代の私塾」構想について具体的に説明する「多摩大学教育説明会'04」を6月25日(金)の15時から17時まで多摩大学品川キャンパスにて行います。中谷巖学長による「なぜ、いま『現代の私塾』構想が大学改革に不可欠なのか」を始め、今泉忠経営情報学部長による「多摩大学オリジナル教育プログラムについて」など、多摩大学が取り組む教育改革(自己発見・イングリッシュシャワーなどの生き方、コミュニケーション教育やゼミ中心教育について)についてお話をします。また、就職率98%を誇る多摩大の就職指導(学生・教員・就職グループ三位一体のサポート)や、平成17年度入試(アドミッションポリシー)や16年度からの変更点)についてもご案内します。お問い合わせは多摩大学フロンティアセンター入試・広報グループ(電話 042-337-7119)までお願いします。

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷 巖

### 中国の発展がもたらすもの

多摩大学と中国の天津財經大学との交換留学制度がスタートした。早速、多摩大生4名が留学生となって中国で勉強を始めた。中国の発展は誠にめざましいが、これは日本にとって脅威ではなく、大きなチャンスである。なぜなら、9パーセントも経済成長する大国のすぐ隣に位置する日本は、欧米諸国に比べてこの恩恵を直接、享受できる立場にあるからである。これからもできるだけ多くの留学生が相互に行き来し、日中両国の架け橋になってほしいものだ。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せください。

# 多摩大学 rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



齋藤 裕美  
Hiromi Saito  
多摩大学 教授

## Monthly Message 29

### グループ企画を楽しもう

現在ゼミでは、高校生向けループ・ゴールドバーグコンテストの企画と実施に取り組んでいます (<http://www.edu.tama.ac.jp/rgc/>)。齋藤ゼミでは個人のソフトウェア操作能力を伸ばすとともに、このようなグループプロジェクトにも取り組みます。高校生の参加をどうやって募るか、支援体制をどうするか、宣伝は、当日の運営は、というように考えることが山積みです。グループの中で自分の果たすべき役割は何か、他人に言われ

る前に気がつくことが重要になってきます。なぜこれをゼミでやるのか質問が出たこともあります。リーダーを誰にするかだけで1時間議論することもありました。真剣に取り組むほど「責任」の重さにつぶされそうになるでしょう。私からはそれぞれの学生がどう伸びたか見えるのですが、本人たちが気づくのはずっと後、もしかしたら社会に出てからかもしれません。「楽しい」と感じる具合は「真剣さ」に比例するのだと思います。

## PROJECT

### 「40歳代CEO育成講座」 —イスラム問題の本質を探る—

2004年度のルネッサンスセンター(品川インター シティA棟27階)における社会人教育が5月からスタートしました。3期目を迎えた「40歳代CEO育成講座」が22社24名の精鋭を得て、順調にカリキュラムが進んでいます。この3ヶ月は哲学、宗教に始まり、大半をイスラム問題の本質探求にあてています。

イスラム世界を特に取り上げる理由は、この地域の問題が欧米世界にとっては最大の関心事であるにも関わらず、多くの日本人にとって非常に遠い世界のように感じられるからです。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教はいずれも旧約聖書を共通の聖典としており、西洋社会の理解のためにもイスラム社会の理解が欠かせないと考えられています。このような理由から、当講座では、イスラム世界についての理解を深めることは、これからビジネスリーダーにとって不可欠の教養であると認識し研究しています。今後はイスラム社会の理解をさらに深めるべく、当講座の研修の

一環として中東地域へ実地調査を計画しています。本来イスラムを研究する上で欠くことのできないイスラエルのエルサレムやサウジアラビア等へ行き、理解を深めたいところですが、昨今の治安の悪化で周辺諸国に限定して渡航することにしています。

その他、3ヶ月研修の異業種企業家塾春コースが最終段階を迎えていました。「ロジスティクス戦略会議」が6月に始まりました。今年から大学院で始まった「ロジスティクス経営コース」と連携してますます重要度の高まる会議です。また、間もなく7月から「経営戦略研究会」が始まります。これは企業経営者や学識経験者を招き、経営の最先端の研究を行うものです。何れも社会人と大学が連携して執り行う多摩大学ルネッサンスセンターの特色あるプログラムです。

### 2年生個人面談行われる —自分の将来を深く考える礎に—

昨年に引き続き、4月中旬から5月中旬にかけて、2年生を対象とした個人面談を行いました。事前に学生が作成したレポートをもとに、約30名のゼミナール担当教員が「一年間の大学生活を通じて学んだこと」「自分が今後何を学びたいか」「将来の目標」などについて、問答を行いました。学生は秋学期から始まる専門ゼミナールを決める参考にしたり、将来の目標を達成するための具体的なアドバイスを適宜もらっていました。



中谷学長自らメッセージを伝える40歳代CEO育成講座

今年は、希望者のみ面談をしましたが、100名を越える2年生が出席し、真剣な眼差しで教員の話を聞いている姿がとても印象的で、教員ランジはいつも以上に活気にあふれておりました。

出席した学生にとって、この機会がきっかけになり、将来の目標に向かって自分自身で深く考え方行動できる礎になることが期待されます。

#### <面談結果(108名)>

1. 「自己発見」等、1年間の大学生活を通じて学んだこと。

集団で物事をすすめる方法を学んだ。 責任感が身に付いた。	20名
自分で考え方行動する積極性が身に付いた。	10名
自己分析ができた。自分を振り返れた。 視野が広がった。	10名
コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身に付いた。	9名
深く物事を考えるようになった。 探究心が身についた。	9名

上位5回答

#### 2. 将来の進路について

「考えている」と答えたのが、108名中82名(75.9%)であった

企業へ就職	51名 (62.2%)
資格を活かした職業	9名 (11.0%)
留学、大学院	8名 (9.8%)
起業	7名 (8.5%)
公務員、教員	5名 (6.1%)
家業継承	2名 (2.4%)

※将来の進路内訳における割合は回答者82名に占める割合を示す。

## 多摩大学ゼミ博第1回開かれる

多摩大ゼミ博2004が2004年6月26日(土)に開催されました。多摩大ゼミ博は「ゼミ中心大学」を目指す経営情報学部のゼミを実際に体験するもので、当日は「清涼飲料水」「携帯電話」をテーマに新商品開発をするための様々な視点でゼミが開かれました。

参加した高校生は実際に先生、在学生と一緒に新商品開発のためのディスカッションを行い、ターゲット、コンセプト、広報活動等、様々な視点で商品開発のためのディスカッションを行いました。最後には製品発表のプレゼンテーションを行い、高校生活では味わえないゼミを満喫しました。

一方的な知識伝達をする講義ではなく、先生と学生が、あるいは学生同士が熱い意見をぶつけあう「私塾」のような多摩大学のゼミを体験するゼミ博は9月、10月にも開催します。



実際のゼミ同様少人数でゼミ博は行われました。

## 多摩大学教育説明会開かれる

多摩大学教育説明会'04が2004年6月25日(金)に多摩大学品川キャンパスにて行われました。『『現代の私塾』構想について』と題して行われた説明会には高校・教育マスコミ関係者等多くの参加がありました。

今泉忠経営情報学部長からは「多摩大学オリジナル教育プログラムについて」として自己発見、イングリッシュシャワー、ゼミ中心教育について説明がありました。その他入試について、就職について多摩大学の特徴を説明した後、中谷巖学長が多摩大学の現代の私塾構想について熱く語り、説明会は盛況のうちに終了しました。

## 多摩大学の活動が各方面で評価

『2005年版大学ランキング』(2004年5月1日朝日新聞社発行)で学長からの評価で教育分野6位、総合14位、高校からの評価で生徒に勧めたい分野で56位と多摩大学が高い評価を受けています。また、2004年5月10日の朝日新聞『就職力』で多摩大学が

取り上げられる等ランキング以外でも多摩大学の特徴ある教育が注目を浴びています。

就職率で毎回上位にランクインされている多摩大学ですが高い評価には自己発見やゼミ中心教育といった他にはない質の高い教育と、教員・学生・職員が三位一体となって多摩大学を盛り上げていくシステムが反映されているといえるでしょう。

## 多摩大学ホームページリニューアル

2004年7月10日(土)に多摩大学ホームページがリニューアルされます。『現代の私塾』として飛躍する多摩大学の特徴をもれなく紹介していきます。また、日本の大学でははじめて「Blog(ブログ)」による連載も開始します。是非ご覧下さい。

URL : <http://www.tama.ac.jp/>



画面は開発中につき公開時には一部変更される場合があります。

## TOPIC

### 7月の入試イベントのご案内

平成17年度入試に向けてのイベントが本格的に始まります。7月17日(土)の13時~17時は第1回オープンキャンパス。経営情報の面白さを実感できる体験授業を始め、キャンパスマーチ、学食懇談、入試個別相談など盛りだくさんの内容でご案内します。また7月25日(日)の10時より品川キャンパスにてチャレンジ(AO)入試説明会を行います。1年間の個別指導が受けられる多摩大学独自のAO入試について、担当教員が直接説明します。教員による個別相談も受けられる貴重な機会ですので、是非ご参加下さい。そして7月28日に東京ピックサイトで行われる「進学わくわくライブ」に多摩大学が参加します。当日は多摩大学の人気教授陣による体験授業、個別ブースによる入試相談を行います。イベントの詳しい内容はホームページ<http://www.tama.ac.jp/>をご覧下さい。

### TGS Speaker's Corner Tokyo

ロンドンのハイドパークで毎週日曜日に行われている「スピーカーズコーナー」をご存知ですか? 議論好きの弁士と聴衆達が集い、自由なテーマで自由にディスカッションをしているのです。大学院では、毎回、その時々の旬の人にご登壇いただき、フリースピーチの後、参加者との活発なディスカッションを行っています。7月12日(月)には多摩大学品川キャンパスでJFA副会長・FIFA理事の小倉純二氏による「変貌するワールドサッカー 2010年ワールド・カップ南ア開催が意味するもの」が行われます。詳細はホームページをご覧下さい。

### 内定率50%突破! 就職活動も後半戦に

昨年12月に日本経団連の新規学卒者の選考に関する企業の倫理憲章、いわゆる「共同宣言」が発

表され、大手企業の動きが気になるところでしたが、実際には心配したほどの影響はありませんでした。一部の企業で選考スケジュール自体が大幅にずれ込み、2月のエントリーから3ヶ月経過してようやく選考案が学生に通知されるというケースもあり、学生感情を苛立たせた面も確かにありました。しかしそんな中で多摩大学の就職状況は、苦戦しながらも、6月30日現在で内定率は50%を突破しています。曖昧模糊→試行錯誤→自己嫌悪→東奔西走→一期一会→猪突猛進→疲労困憊→七転八起→一進一退→一喜一憂→意氣揚々、これが、個人差はありますが、内定に至るまでのおよそのプロセスです。一生に一度の経験。一見、辛そうですが、コツさえつかめば、割と楽しいのが新卒就職活動なのです。

就職希望者249名 就職内定者133名 内定率53%  
主な内定先 ホテルオークラ、アンリツエンジニアリング、ウシオ電機、京セラコミュニケーションシステム、桜井グラフィックシステムズ、セコム、セブン-イレブン・ジャパン、大和ハウス工業、N E Cシステム建設、スルガ銀行、百十四銀行 他 (6月30日現在)

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷 巖

### 学校で「宗教」は教えないのですか?

私自身の経験で言うと、学校で「宗教」について教わった記憶はほとんどない。もちろん、特定の宗教を信じさせる教育のことではなく、世界の宗教にはどのようなものがあり、それぞれの教義の中身はどのようなものかといった世界の常識としての宗教教育のことである。このことが日本人を著しく国際音痴にしてしまっている。たとえば、パレスティナ問題は、宗教の知識がないと理解できない。世界の常識としての宗教を学校教育のどこかで教える必要があるのではないだろうか。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラボールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしあ寄せてください。

# 多摩大学 rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



野田 稔  
Minoru Noda  
多摩大学 助教授

## Monthly Message 30

### お父さんのための自己発見講座

講演会やら企業研修やら諸々あわせると年間100回以上、いわゆる“社会人”的な方々の前で話をする。今、急増しているテーマが「キャリア自立(自律)」だ。キャリア自立とは、会社などの組織に属していても、自分の生き方を組織任せにせず、自分の人生は自分で決める事を示す。「なんだ、当たり前じゃないか」と思う方は今のサラリーマン・OLの実態をご存じない。就職が決まった時点で、後は会社にお任せの人が殆どなのだ。しかし、厳しい状況の中で会社も無条件に最後まで面倒を

見てくれなくなった。困ったのがここ何十年も自分の人生について思考停止状態にいた世のお父さんたち。「自分は何者なのか?何がしたくて、何が出来るのか?」皆目見当がつかない人が大勢いる。自己発見が必要なのは何も大学生に限らないのだ。自己発見の講義を経験した多摩大の学生諸君、君たちの周りの人たちに、自己発見の仕方を教えてあげてください。そうしないと来年から中谷学長がルネサンスセンターで「40歳代自己発見講座」を開かなくてはならなくなりますよ!

## PROJECT

### 自己発見フィールドワーク発表会開かれる ～皆さん、心にアートを描いてみませんか？～

平成15年7月10日(土)に自己発見フィールドワーク最終発表会が開かれた。自己発見は中谷巖学長主導のもと、従来の詰め込み型の教育ではなく、「生き方」「考え方」を自ら発見し、「本当の自分を発見すること」を目標にプロジェクトを進めていくという今までの大学にはない画期的な教育プログラムである。今年のフィールドワークのテーマは「TAMA」について。多摩市だけではなく「TAMA」というキーワードをもとに様々な問題発見を行った。

最終発表会には全45チームが発表を行った。内容は多様で多摩大学の駅看板や学内の掲示板を扱うチーム、関戸橋火火大会復活を提案するチーム、実際に学内のたばこを扱う活動を行うチームなどがあった。その中で「皆さん、心にアートを描いてみませんか?」の発表を行った第30班が最優秀賞を獲得した。このチームは多摩大学内にアートの少なさを発見し、もっとアートを増やしていきたい、そのためにはどうしたらいいかというテーマに取り組んだ。実際に学内でアンケートを集め、他大学の視察、美術展や街の

中をフィールドワークしていった。そんな中、NPO団体が渋谷等で落書きを消してその壁に「グラフィティ」と呼ばれるアートを描いてもらうという活動をしていることを知り、多摩大学内にアートを書いてもらうように依頼した。大学側にも企画書を提出したが様々な問題がわかり、一時はアートを描くことを断念したが新たな解決法を模索する。それは「自らがアートを描き、学内に飾ること」だった。発表2週間前から作品作りを始め、メンバーが集まり作品を仕上げた。実際に学内に作品を飾り、多くの人の賛同を得た。その事が大きな評価を得て30班は最優秀賞を受賞した。

アメリカに語学留学して戻ってきたメンバーは「留学から帰ってきたら日本は灰色だった。アートの必要性を大学に入る前から痛感していた」と語る。大学に入って見知らずの人とチームを組み、一つの方向へ進んでいった。作品作りにはチーム全員が参加したという。チームワークの勝利だった。自己発見も3年目を迎えるには全ての学生が自己発見を受講したことになる。多摩大学内の活気がより一層高まってきた気がする。



最優秀賞の30班のメンバー

### 中国・天津財経大学留学体験談

2004年3月より中国・天津財経大学へ語学研修生として留学していた学生2名が半年間のプログラムを修了し、帰国した。9月からは天津財経大学の学生4名が多摩大学に交換留学生として来日する。経済

発展めざましい中国への留学を終えた学生は何を感じてきたのだろうか。丸山弘明君(3年)と新井真由美さん(3年)に話を聞いた。

留学のきっかけは?「以前から中国に興味がありました。学生時代にしかできない経験をしてみたかった。(丸山)」「高度成長を自分の目で見てみたかった。今しか経験できないと思いました。(新井)」実際のキャンパスライフはどうでしたか?「午前中は多様な国の学生と一緒に授業を受けました。1クラス10人程度です。研修センターでは韓国の学生と一緒に様々な話ができる語学とは別の貴重な体験ができました。(丸山)」「留学前までは中国語はまったくできませんでした。はじめは身振り手振りで話していましたが次第に簡単なコミュニケーションがとれるようになりました。自分の言葉で話すということがどれだけ大切か感じました。(新井)」10月からは中国からの留学生が来ますが何か対応は考えていますか?「交流会を開いてあげて、相談にのってあげたい。(丸山)」

実際にプログラムを終えた2人に話を聞いてみると様々な国の人との出会いが最も貴重な体験だったようだ。交換留学生を通じて多摩大学の学生が世界を感じるきっかけになるだろう。



中国・財経大学国際交流センターにて

## 出原ゼミ再び世界の舞台へ 「シーグラフ2004」に出演

多摩大学出原ゼミがアメリカサンゼルスで開催される「シーグラフ(SIGGRAPH)2004」に作品Dis-Tansuを展出します。シーグラフとはコンピュータグラフィックスの世界で最も権威あるイベントです。出原ゼミではこの作品で2003年IVRCで全国大会3位、フランスで開催されたラバルバーチャルの出展に続く快挙です。Dis-Tansuはタンスの中にディスプレイと加速センサを設置して引き出しを前後に揺らすことによって水に波が立つなどインラクティブ性を重視した作品です。フランスのラバルバーチャルでは「オリジナルである」ということが高く評価され、今回のシーグラフ出展となりました。8月に再び世界の舞台に立つ出原ゼミの報告をこれからも続けます。



「Dis-Tansu」ディスプレイの中には桜吹雪が舞う

## KTC運動始まる！ —より快適なキャンパス作りへ—

多摩大学は以前よりタバコの分煙化を徹底するとともに、ゴミやタバコのポイ捨てをなくすなど、清潔で快適な学習環境作りにつとめてきました。2004年7月から、この流れをさらに進めて、全学のマナー向上と、より清潔で快適なキャンパス作りのために、全学をあげてKTC(Keep Tama university Clean)運動に取り組むことになりました。日頃からゴミやタバコのポイ捨てをなくすことにつとめるだけでなく、毎月1回「KTCの日」を決め(偶数月は第2月曜日、奇数月は第2木曜日)、昼休みに教職員と学生がいっしょになってボランティアで学内及び周辺地域のゴミ回収をします。第1回目は7月8日(木)に行われ、炎天下の下、およそ30人がゴミ回収に汗を流しました。次回の「KTCの日」は、10月12日(火)の予定です。



多くの学生・教職員が参加したKTC運動

## MIC公開セミナー開催 —インターネット検索のコツ、教えます—

多摩大学メディア&インフォメーションセンター(MIC)の公開セミナーが7月3日に開催されました。MICとしては初の試みでしたが、29名の地域住民の方にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。セミナーでは、検索エンジンの解説や、必要な情報を得るためのテクニックを実際にパソコンを操作しながら学んでいただきました。

好評につき、MICでは第2回の公開セミナーを今秋に予定していますので、奮ってご参加下さい。

## SRC 2004 Spring 開かれる

2004年7月3日(土)多摩大学212教室にてSRC(Student Research Conference)が開かれました。SRCは多摩大学ゼミが集まり各自の研究発表を行い、ディスカッションを行う場です。

毎年夏と秋に行われ、今年は前回以上に多くのゼミが参加し、「和食文化の復活」「夢による商品マーケティング可能性の研究」「ビジネスシーンにおける日英表現比較」などの発表が行われました。

## TOPIC

### 後援会セミナー「中谷巖講演会」開催！

2004年9月7日午後6時30分より、「多摩大学ルネッサンスセンター」(品川インターシティA棟27階)にて、多摩大学後援会セミナーが開かれます。在校生の保証人が会員になっている多摩大学後援会が、中谷巖学長を迎えて「グローバリゼーションと日本人」をテーマに、会員向けに講演会を開催するものです。当日は講演の後、多摩大学教職員もまじえて会員同士の懇親会も予定されています。参加費は無料です。

(問合せ先)多摩大学後援会事務局 042-337-7112 担当・大島

### 第1回オープンキャンパス開かれる

2004年7月17日、今年度第1回目のオープンキャンパスが行われました。当日は体験授業、キャンパスツアー、推薦入試対策講座、学食懇談会等の

多数のプログラムが組まれ、高校生・保護者合わせて150名を超える参加者が来校され、多摩大学のキャンパスライフを実体験しました。当日は大変厳しい暑さでしたが、参加した高校生・受験生は体験授業を始め、学生スタッフ、教職員との懇談会やキャンパスツアー等を通じて多摩大の入試や学生生活に関して真剣に相談する姿も多く見受けられました。第2回、第3回のオープンキャンパスは8月10日、22日の10時から17時まで開催されます。経営情報の面白さを実感できる体験授業を始め、キャンパスツアー、学食懇談、入試相談などの多彩なプログラムで多摩大のキャンパスライフを体験できます。詳しくはホームページをご覧下さい。事前予約者全員に当日多摩大オリジナルパスネットを差し上げます。



第1回オープンキャンパス体験授業の様子

### 平成16年度ビジネスインターンシップの参加者が決定

平成10年度より実施のインターンシップが今年で7年目を迎えました。導入当初は業種を問わず情報サービス関係の職種(SE,PG等)で参加していましたが、今回より、管理・スタッフ部門の事務系部門まで幅を広げています。SEやPGとしての実践的な体験を希望する者、その一方で企業の事業活動を通して、「働くこと」とはどんなことなのかを体験したい者、など希望者の動機は様々です。インターンシップは貴重な就業体験です。参加が決定した学生には、企業の持つ「スピード感」、「緊張感」を体験して欲しいと思いますし、このインターンシップでの経験を是非将来の職業選択に役立てて欲しいと思います。

<受入予定企業と参加予定学生数>  
アイアンドティー、味の素システムテクノ、NECユニバーシティ、新和システム、住友商事マシンエックス、都築通信技術、牧野フライス製作所など

受入予定企業 30社 参加予定学生 40人

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷 巖

### シナイ山で日本を想う

先日、モーゼがヤハウェの神から10戒を授かったシナイ山に登った。なぜ、世界の3大宗教(ユダヤ教・キリスト教・イスラム教)の源となった一神教がシナイ半島から出てきたのかが分かったような気がした。見渡す限り草木の一本も生えない荒涼とした砂漠と荒くれだった岩山。こんな場所で生活すれば、強力な神でも信じないと人間はとても生きていけない。それに比べて、日本人は恵まれているなーと痛感した。日本のこと、そして、国際社会を深く理解するにはこういった体験も必要である。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一言メッセージをお伝えします。多摩大学、ラボールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rappo/>までどしどしお寄せください。

# 多摩大学 rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



**出原 至道**  
Norimichi Idehara  
多摩大学 助教授

## Monthly Message 31

### 海外を目指せ

前回19号のマンスリーメッセージで触れたとおり、今年五月、フランスにゼミの学生が招待されました。バーチャルリアリティの大会への出展です。この展示がきっかけとなって、八月には世界最大のコンピュータグラフィックスイベントSIGGRAPHに出展しました。

フランスとアメリカ、「西欧」という言葉で括られることもありますが、実際にその地を観光でなく訪れると、それぞれの国民性を実感として感じることができます。また、振り返って日本の国民性を再認識することにもつながります。「国際性」とは、実はこのあたりに気付くところから始まる

ものです。

展示の説明に立った学生は、日本語は当然通じませんから、英語や付け焼刃のフランス語で一所懸命解説していました。大変だったんだろうと思いますが、「出展する側」だけの貴重な経験を得ることができます。

とき折しも、オリンピック。以前に比べ、競技を楽しみながら実力を発揮する選手が増えているように思います。地道に成果を積み重ね、それをどこでも物おじすることなく発表する。大学を目指すのは、こういう人間です。

## PROJECT

### 出原ゼミ再び世界の舞台へ 「シーグラフ2004」に出演

多摩大学出原至道ゼミが2004年8月8日から12日にアメリカカロサンゼルスで開催された「シーグラフ(SIGGRAPH)2004」に作品『Dis-Tansu』を出展しました。シーグラフはコンピュータグラフィックの世界で最も権威のあるイベントで、「ファンディングニモ」等を制作したPIXAR社や「シェレック2」等を制作したDreamWorks等、ハリウッド映画制作会社も多く出展しています。

出原ゼミはIVRC(Inter-collegiate Virtual Reality Contest)に6年連続で全国大会に出場するなど毎年学内外から高い評価を受けてきました。『Dis-Tansu』は2003年の9月、岐阜で開催されたIVRCで全国3位を授賞、続いて2004年5月にはフランスラバールバーチャルに招待出展、そして今回のアメリカシーグラフ出展となりました。

Dis-Tansuは動的視差による立体視とフォースフィードバックを応用した画期的な作品で一般社会でもまだ見かけないユニークな技術を使用しています。タンス(箱)の引き出しの中に液晶

ディスプレイを斜めに入れ、引き出しを動かした距離でディスプレイ内の3Dコンテンツが立体に見えます。また、ディスプレイ内に仮想の水を配置して引き出しを動かすことによって水が流れ、その振動を内部のモーターによって実際に感じる事が出来ます。

シーグラフでは表示する3Dコンテンツを『日本の四季』に変更、箱の中に日本庭園として五重の塔、池を配置、春には桜、夏には池に月が写り虫が舞い、秋は紅葉、冬は雪化粧と枕草子をイメージさせる幻想的な3Dコンテンツが完成しました。

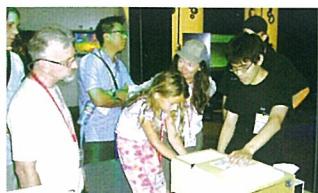
今回のイベントではリピーターも多く、「クール、マジックボックス!!」と驚きの感想が多く聞かれました。

11月6日(土)・7日(日)に開催される多摩大学学園祭で出原ゼミブースに『Dis-Tansu』を出展する予定ですので是非体験してみてください。

### 中東での研修・調査でイスラムを掘り下げる —40歳代CEO育成講座—

ルネッサンスセンターの社会人教育が後半に入った。第3期目の「40歳代CEO育成講座」は5月から8月初旬まで「世界の構造問題」として歴史、宗教、思想、経済等あらゆる角度からイスラムを研究した。イラク戦争及びその戦後処理の出口が見出せない状況ではあるが、このようなトピックの背後にある構造問題を歴史から繙き、ユダヤ教、キリスト教それにイスラム教と歴史的に流れる一神

教の真髄に触れるために、あえてこの時期に中東に調査に出かけた。多方面からイスラムの理解を深めるために4グループに別れた。但し、1チームは企業側の了解が得られず、やむを得ずロシアに調査先を変更した。イスラム教のその源は、砂漠という極めて荒涼な地政上の制約を受けた中で生まれた。日本のように四季があり、降水がある風土を持つ多神教国家では全く想像ができない、まさに神に祈りを捧げて生死の淵を何とか生き延びてきた風土の一端を感じてきた。水のない厳しさ、恐怖である。しかし、石油という天然資源が発見されて全てが一変したことも大いに感じられた。この石油が世界経済に与える巨大な影響力というパラダイムが変わらない限り、この地は安泰である。数十年前から石油の埋蔵量は一向に減らない不思議さを感じながら調査を終えた。先日そのまとめを行い、その原稿は500枚を優に超える中身の濃い論文に仕上がった。これから「日本の構造問題」に入り、日本文化、民主主義や憲法、外交政策など日本国の根底をなす問題に取り組む。受講生は睡眠時間を削らないと、ついて行けないほどこの講座は厳しい。この困難に耐えて初めてCEOのマインドに変わるのである。



シーグラフ2004の多摩大学出原ゼミブースの様子



モーゼ山から下山途中の中谷学長とCEO講座のメンバー

# 多摩大学オープンキャンパスフォトレポート

## ～多摩伝説のすべて～

2004年7月17日(土)、8月10日(火)、22日(日)に開催された多摩大学オープンキャンパス。  
様々なプログラムを写真と一緒に紹介します。もっと詳しい情報はホームページで公開予定です。



2004年7月、8月の多摩大学オープンキャンパスは天気にも恵まれ、多くの高校生、保護者の方の参加で大いに賑わいました。今年のオープンキャンパスのテーマは「多摩伝説のすべて」。多摩伝説と呼ばれる様々な特色を実際に体験できるプログラムを多数用意しました。

受付②の後、オリエンテーションを101教室で行いました。■今泉忠学部長■が経営情報学部の特徴を説明しました。7月17日には諸橋正幸教授⑩による「推薦入試対策講座」を行いました。体験授業では7月17日には田口聰志助教授⑪による「企業の「儲け」とは何か?」、豊田裕貴助教授⑫による「事例で学ぶマーケティング入門」、8月10日には飯田健雄教授⑬による「トホホな大学生活を送らないために」、斎藤裕美教授⑭による「デジタルムービーで自分を表現」、望月輝彦教授⑮による「幸せを生み出すウォルト・ディズニー物語」、佐野祐美子助教授⑯による「受験英語を無駄にしない!」、8月22日には野田稔助教授■による「親父達はなぜプロジェクトXを見て泣くのか」、出原至道助教授⑯による「バーチャルリアリティの世界」、白井芳子助教授■による「イングリッシュシャワーを浴びよう!」といった様々な授業が開かれました。

授業の後には現役学生が教室や図書館などを案内して回るキャンバスツアー④⑤を行いました。お昼には学生食堂⑦で昼食をとりながら現役学生や先生との交流会⑧や入試相談⑨を行いました。パンフレットやホームページでは知ることの出来ない情報を知ることができたようです。

自己発見、ゼミ中心大学と様々な取り組みをしている多摩大学を体験した参加者からは「少人数が魅力的」授業を聞いて新しい発見があったといった意見を聞くことができました。

## NEWS &amp; TOPIC

「パワーポイント研修会」開かれる  
多摩市、稻城市との地域連携深まる!!

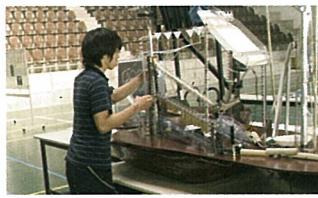
多摩市及び稻城市と多摩大学は、平成14年度より幅広い相互の連携・協力によって教育環境の整備に取り組んでいます。平成16年度の夏期プログラムとして、7月28日(水)、30日(金)の両日、多摩大学112教室において、多摩市教育委員会、及び稻城市教育委員会主催の「パワーポイント研修会」が開かれました。両日とも、多摩大学の常見教授、出原助教授が講師となり、それぞれの市内の小・中学校教諭およそ60名が受講しました。



パワーポイント研修会の様子

## ループ・ゴールドバーグコンテスト結果発表

2004年8月22日(日)に多摩大学で斎藤ゼミ主催ループ・ゴールドバーグコンテストが開催されました。2004年の課題は「10段階以上の課程を経て国旗を描こう!」です。審査の結果、マシン部門グランプリにはものづくり大学「からくり新撰組」チーム、ムービー部門ビジュアル賞には青葉短期大学「きんぎょ」チーム、イラスト部門イラスト賞には多摩大目黒高校「2年A組谷川学級」「C.u.Li.A.M.Princess」チームが選ばれました。



グランプリを獲得したからくり新撰組チームの作品

## 9月のオープンキャンパス情報

多摩大学オープンキャンパスを9月18日(土)、9月25日(土)の13時~17時に行います。経営情報の面白さを実感できる体験授業の他、キャンバスツアー、学食懇談、入試相談などのプログラムで多摩大学のキャンパスマイルを実体験できます。18日は少人数によるゼミ体験、25日は推薦入試対策講座もあります。多摩大学では徹底した少人数によるゼミ中心カリキュラムを敷いており、「多摩大学で学ぶとはどういうことか」を理解できる「ゼミ体験」は多摩大学でしか体験できない貴重なイベントです。推薦入試対策講座では、小論文・面接での対策について、入試担当教員が直接お話しします。個別相談もできますので、推薦入試をお考えの方はぜひご参加下さい。詳細はホームページhttp://www.tama.ac.jp/をご覧下さい。

## 中谷巖の痛快日記

中谷巖の痛快日記9月号はお休みさせて頂きます。

# 多摩大学 rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



臼井 芳子  
Yoshiko Usui  
多摩大学 助教授

## Monthly Message 32

### カルチャーショックを乗り越えて

今年も20名ほどの多摩生がT-SAP(多摩大学短期留学プログラム)に参加し、それぞれ5週間カナダ・アメリカで語学・文化研修をした。他国からの留学生との授業やホームステイ先で受けた様々なカルチャーショックを乗り越え、一周りも二周りも成長したようである。

日本は「あ、うんの呼吸」が象徴するようにしばしば場面高依存型文化と分類される。つまり10語らなくて相手が意を汲み理解してくれるというのである。一方、カナダやアメリカは場面低依存型文化といわれ、10語って理解を促す。しかし、だからといってずけずけと失礼な事を言っていいわけではない。相手の文化規範・価値を尊重し、外国語でコミュニケーション

をとることは至難のわざである。特に英語を世界共通語として使う場合、殊更にそうである。話す相手の出身国・地によって文化規範・価値が違うのである。この夏T-SAPに参加した学生はきっと「いや、コミュニケーションを取ろうとする意志そして相手への思いやりがあれば可能」だと言うのではないだろうか。カルチャーショックを乗り越えたからこそ言える言葉である。

カルチャーショックを乗り越えていく過程で自分に気づき、目標をも築いていく。その新たな目標に向かっていく過程で、変化を拒まず新しいものにチャレンジするといいだろう。言葉は目的ではなく手段である。この手段を駆使し「自己発見」の旅を続けてほしい。

## PROJECT

### 短期留学プログラム(T-SAP)行われる

2004年夏、多摩大学短期留学プログラム T-SAP(Tama University - Study Abroad Program)が行われました。T-SAPとは多摩大学のオリジナルプログラム「イングリッシュシャワー」で身につけた英語能力をより磨くために用意されたプログラムで今年で2年目です。カナダのUniversity of Victoria(8月2日～9月6日)又はアメリカのPortland State University(8月10日～9月12日)で約1ヶ月間、語学研修やホームステイを体験しました。

今回は実際にT-SAPを参加した4人の学生に話を聞きました。

「T-SAPに参加しようと思ったのは視野を広くしたいと思ったからです。大学で知り合った友達で既に留学している人と話していると視野がとても広いことに驚きました。今回参加して自分のためになったのはT-SAPの授業やプログラムで学んだことはもちろんですが町に出たり、普通の生活の中で文化・習慣を肌で感じられたことです。(三宅早織さん 1年生 カナダ)」

「カナダに向かう途中空港でトラブルがあって飛行機を待つことになったのですがそこで自分の英語の実践力がないのを痛感しました。ただ、T-SAPのプログラムやホームステイを通じてどんどん英語に慣れていきました。自信もつきまして、イングリッシュシャワーの先生とは英語で

しか話してはいけないのですが、T-SAPに参加する前まではいつも逃げてばかりでしたが、参加後は1時間以上も普通に話すことができるようになりました。(君塚あゆ美さん 1年生 カナダ)」

「日本人以外の考え方を知ろうと思うとやはり英語が必要だと思ったんです。ホームステイ先には私の他にも韓国人の人もホームステイしていました。またその友達のタイ、カンボジアの人とも知り合うことができました。これはすばらしい異文化交流となりました。(笹沼裕文君 2年生 アメリカ)」

「高校生の時から長期留学を考えていたのですが実際に行くかどうか悩んでいました。アメリカビジネスというクラスに参加してインテルといったアメリカの大企業を訪問し担当の方から会社の概要などを説明してもらいました。専門用語は難しかったですがとてもいい体験でした。今回の留学を通じていつかは長期留学をしてみたいと決心しました。(横美紗子さん 2年生 アメリカ)」



(上)カナダ合同授業風景 (下)アメリカ企業訪問の様子

### 中国天津財経大学からの留学生来る

2004年9月17日に中国・天津財経大学から多摩大学への留学生4名が来日しました。留学のきっかけや将来の夢などについて聞きました。

日本留学のきっかけは?「日本語を勉強する上で実際に日本の生活・文化を体験することが必要だと感じたからです(綾芳さん)」「高校生の時に川端康成や三島由紀夫といった日本文学に触れる機会があり人間関係等が中国と違って大変興味を持ちました(馬欢君)」将来の夢は?「中国には日本の企業が沢山あります。その中で働くには日本語だけではなく、日本の経済、文化を実体験していることは重要だと思っています。(施凌さん)」授業の感想は?「授業は早く聞き取りが難しいが慣れていく(田胜利君)」

まだまだ慣れない日本の大学生活ですが、2004年3月より天津財経大学に語学研修生として留学していた学生がいろいろな相談を受けたりと、多摩大学生との国際的な交流も深まっていくでしょう。



天津財経大学からの留学生と留学していた多摩大学生

## NEWS

### 第1回後援会セミナー開かれる！

9月7日(火)夜、品川キャンパスにおいて、在校生の保証人で構成される多摩大学後援会主催の第1回特別講演会が開かれました。

当日はおよそ60人の会員が出席、中谷巖学長が「グローバリゼーションと日本人」と題して講演を行いました。「外国からの宗教、文化、技術などを“選択・吸収・同化”的日本的プロセスでいかに巧妙に受け入れてきたか」「Japan as No.1とさえ言われるほどだった経済システムの有効性がなぜ急速に失われたのか」「少子高齢化と本格的なグローバリゼーションの中で日本人はどう対応していくべきか」などが話され、講演後の質疑応答や多摩大学教職員をはじめた懇親会では、中谷学長を囲んで活発に意見交換をする会員の姿が印象的でした。



第1回後援会セミナーの様子

### 品川キャンパスで学部授業始まる

9月28日(火)より、品川キャンパス(品川インターシティA棟27階)で、学部授業が開始されました。品川キャンパスでは、これまで「40歳代CEO育成講座」をはじめとする高度社会人講座や、社会人対象の夜間大学院の授業が主に展開されてきましたが、いよいよ学部の授業も展開される運びになりました。

2時間～4時間を使って、「社会システム論」「国際経営特講Ⅰ・Ⅱ」「創造学特講Ⅰ・Ⅱ」が行われ、学部生は多摩キャンパスとは異なる、首都東京の新ビジネスゾーンの真只中という環境の下で、さまざまな刺激を受けているようです。品川キャンパスでは、今後、こうした授業の他に、専門ゼミや1つのテーマごとに結集するプロジェクトゼミなども幅広く展開されていく予定です。



品川キャンパスでは様々な形態の講義が行える。

### 大学入口スロープ工事、教室改造工事完了 アメニティさらに向上へ

夏期休暇期間を使って行われていた、多摩キャンパス入口スロープ工事と、教室改造工事が完了し、多摩大学の学習環境、設備がさらに充実しました。教室は111・112教室、241・242教室がサイバーキャンパス構想の下で生まれ変わり、111教室の前には小規模ながら学生用のラウンジも作られました。また、学生への貸与パソコンの故障等の相談窓口でもあるMIC・MSSの部屋が、A棟2階に上がってすぐの大変分かりやすい場所に移動しました。大学として、これからもアメニティ向上につとめていくつもりです。



MIC MSSカウンター(上)と111教室(下)

## TOPIC

### 平成17年度多摩大学推薦入試情報

平成17年度多摩大学一般推薦入試の出願受付が11月1日(月)より開始となります。出願資格は①平成17年度3月高等学校、中等教育学校卒業見込みの者で、多摩大学を第一志望とし、大学教育を受けるために必要な基礎学力を持ち、体力・意志力が強くて向学心旺盛な者。②出身学校長の推薦を得た者で出身校調査書の全体評定平均値が3.0以上となります。試験科目は小論文・面接です。この他に高校時代に取得した技能・資格に応じて加点する実績加点制度もあります。願書受付締切は11月10日(水)消印有効。試験日は11月13日(土)、合格発表は12月1日(水)です。

少人数ゼミ中心のカリキュラムを敷き、従来の大学にはない徹底した生き方・考え方教育を実践する多摩大学を第一志望とする方で、17年3月卒業見込みの方は是非応募して下さい。試験や実績加点制度の詳細については大学案内又はホームページ(<http://www.tama.ac.jp/>)をご覧下さい。

### 平成16年度ビジネスインターンシップが終了

毎年夏季休暇中に実施しているインターンシップが無事終了しました。今まで情報サービス関係の職種が中心でしたが、今年度は管理スタッフ部門や接客といったサービス業でのインターンシップも行ないました。学生の感想は「人脈が出来た」「作業と仕事の違いを学んだ」、「社員の仕事中の顔と仕事以外の顔を見られて良かった」、「社会人の生活リズムがわかった」、「一つのプログラムをチェックし何度も試行テストを行いチームワークを体験出来た」等、得たものは様々です。受入企業側も、概ね参加する学生に対して肯定的な内容・評価でした。この経験を是非将来の職業選択と人生設計に役立て欲しいものです。

#### <参加企業>

味の素システムテクノ、NECユニバーシティ、住友商事マシネックス、セキド、ナルミヤインターナショナル、牧野フライス製作所、他  
(受入企業34社、参加学生43人)

### 第16回多摩大学学園祭「雲雀祭」情報

第16回多摩大学学園祭「雲雀祭」を平成16年11月6日(土)、7日(日)に開催します。

7日(日)にはフリーマーケットや公開講座として元傭兵テレンス・リーと野田稔助教授による『個人の危機管理とは』、中谷巖学長と若手教授陣による『学生達に告ぐ!』等を開催。そして第16回雲雀祭のフィナーレを飾る後夜祭ではダンス・カラオケ・お笑いLIVEを実施。お笑いLIVEにはインパルスが登場します。

詳細は雲雀祭実行委員会ホームページをご覧下さい。<http://www.hibari-festival.com>



大変賑わった昨年度学園祭模擬店の様子

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷 巖

### 柳に雪折れなし

「柳に雪折れなし」という言葉がある。明治維新や戦後、日本人は外国からの様々なプレッシャーを巧みに吸収し、近代化に成功したが、それでいて、決して心まで西洋化したわけではなかった。何でも強い外国のいいなりになっているように見えて、実は、日本にとって都合の良いところだけをうまく取り入れる。これが「柳に雪折れなし」という諺を日本という国に適用した場合の意味である。問題はグローバル化が加速する21世紀に、日本がこれまで通りの対応ができるのかどうかである。それは日本の若者の手腕にかかっている。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラボールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せください。

# 多摩大学 rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



田口 聰志  
Satoshi Taguchi  
多摩大学 助教授

## Monthly Message 33

### バランス感覚

大学での研究・教育活動の傍ら、週の約半分は、会計監査業務や財務戦略系コンサルティング業務に携わっています。そこで最近痛切に感じるのは、理論的重要性です。

一見すると実務においては、理論が軽んじられているように思われますが、実はそんなことはなく、「なぜこの会計処理をしてはいけないのか?」「なぜこのようなビジネスツールを利用するのが有効なのか?」をクライアントに説得する際には、やはり最後は理論というものが重要となります(いやむしろ、理論がなければ、クライアント、

ひいては株主・投資家等を説得することは不可能でしょう)。もっとも、それが“机上の”ものであってはいけませんし、また実践においてはやはり実務的な感覚も重要といえますが、いずれにせよ、どちらか一方だけではなく、理論と実践との「バランス感覚」というものが非常に重要といえます。

この点に留意しつつ多摩大学の教授陣やカリキュラムを鑑みると、如何に「バランス感覚」に長けたものが理解できます。理論と実践との有機的な結合は是非この多摩大学で、両者の「バランス感覚」を身につけていってほしいと思います。

## PROJECT

### 「自己発見II」始まる より深い知の追求へ

月曜日2時限目、「おはよう。今日もやらなくてはならないことがたくさんだね。」27人の小さなクラスに中谷巖学長が入ってくる。学長の授業が27人だけ?と不思議に思うかもしれない。これが多摩大学の学長主導でスタートした「自己発見II」である。

自己発見は1年生春学期の「自己発見I」と秋学期の「自己発見II」で構成され、両方とも中谷学長が担当している。春学期の「自己発見I」は1年生全員必修の授業。「高校までは学ぶことそのものを目的してきた新入生に『なんのために学ぶのか』を気づかせることが目的。」と中谷学長は語る。「自己発見I」は問題を発見し、解決するためのプロセスを実体験する「フィールドワーク」のパートと、学長をはじめ多摩大学の教授陣が、どう生きるべきか、なぜ学ぶのか、社会への参画のあり方などについて学生と討論するとともに、「知識を得るためにの智恵～メタナレッジ」を身につけるパートの2部構成になっている。

2004年秋より新たに「自己発見II」が開講された。「自己発見II」を開講した理由を中谷学長はこう語る。「2年間自己発見をやってきて学生からもっと深いレベルで自己発見を続けたい、春学期だけの半年間では物足りない、という声が多数ありました。自己発見は「無限に続く旅」のようなもので、これで終わりということはないと思います。それで、学生達の要望に応える形で秋学期に開講しました。し

かもゼミ形式の少人数でないと、十分な議論ができるないということで、人数制限を設けました。『自己発見II』ではもっと深く人生を考えたい、自分発見の旅を続けたいという学生のためのプログラムを用意しています。」

ゼミ形式の授業では一方的な講義だけではなく学長と学生、学生同士がディスカッションする場が多く見られる。最初は、宗教をどう考えるかという問題から入った。宗教とは何か、世界の宗教にはどのようなものがあるのかを知り、その上で、自分の宗教観とはどのようなものかを深く考えることで、自分を見詰める機会にしたいという学長の考え方反映されている。次に来るのは、歴史を通じて世界を考え、日本という社会を位置づけるという段階である。「日本の民主主義の特徴とは何か」「西洋における宗教革命、市民革命、産業革命の歴史的意義」「日本国憲法は変えるべきか」といった大学1年生が議論するには難しいテーマが並ぶ。このようなテーマは「自己発見」と関係がないように思われるかもしれないが、実はそうではない。歴史を学ぶことで自分のいる場所がどこかを理解し、社会と自分自身の関係、日本という国と自分自身の関係などを深く理解することは、自己発見にとって不可欠だという認識である。

実は、このテーマは中谷学長が中心となって多摩大学ルネサンスセンターで開講している「40歳代CEO育成講座」でも取り上げている。「40歳代CEO育成講座は日本を代表する企

業のCEOを育成するための講座ですが、彼らがグローバルなビジネスの場で活躍しようというとき、自分自身が「見えている」ことが前提条件です。自分自身が見えていない人がただやみくもにビジネスに突っ走っても、おそらく成功しないでしょう。実はこのことは、40歳代のCEO候補生達に限らず、大学院生や学部生にも当てはまることです。何かを学び、プロフェッショナルを目指すためには、自分が何者であり、何を目指す人間であるのかについての深い「気づき」が必要だからです。人間というのは不思議な生き物で、気づいた人の能力は、気づいていない人の数倍になると私は思っています。『自己発見II』はより深く自己に気づくための授業だと考えています」と中谷学長は語る。

中谷学長はこれから自己発見を受講する学生達にメッセージを残した。「30人の少人数と聞いて自分はその中に入れないと思わないでください。自己発見の旅に旅立った人は、ぐんぐん伸びるからです。また、多摩大学には実社会経験豊富な先生が沢山います。2年次から始まる少人数のゼミで、そういう先生方と一緒に“生き方、考え方”を見つけてください。そして、さらなる自己発見の旅を続けてほしいと思っています。」



ディスカッションを通して問題を発見する



自ら教壇に立ち学生達に熱いメッセージを伝える中谷学長

# NEWS

## 天津財経大学留学生との交流のつどい行われる

2004年10月20日(水)に多摩キャンパス「アゴラ111」にて天津財経大学の留学生との交流のつどいが行われました。

今回の交流の集いは留学生交流サークル「tamigo(タミーゴ)」が企画運営し、20名以上の学生と学部長他教職員も集まりました。企画運営した「tamigo」の代表吉武浩平君(2年生)は交流のつどいを開いたきっかけについて、「留学生に一番必要なことは色々な人と会って話すこと。でもそれが一番難しいです。私たちはその場を沢山作っていきたいと思っています。」と話しました。



交流のつどいの様子(下)と集合写真(上)

## 第2回KTC行われる

2004年10月12日(火)に多摩大学KTC運動が行われました。KTCとはKeep Tama University Cleanの略で多摩大学のキャンパス内だけではなく、学外の近隣住宅街のゴミ清掃を行うものです。第二回のKTCには約40名近くの学生ボランティア及び教職員が参加しました。天津財経大学からの留学生4名も参加し、第1回に比べ大規模な清掃作業が行われました。

学外では多摩大学学生の通学路となるバス停などはゴミのポイ捨てが多く、ゴミ袋いっぱいに拾ってくる学生もいました。

KTC運動は奇数月第二木曜日、偶数月は第二月曜日(休日の場合は振替)に定期的に行われています。

## 経営情報学部卒業のつどい 大学院学位授与式、入学式行われる

2004年9月25日(土)に経営情報学部卒業のつどい、大学院学位授与式、入学式がそれぞれ行われました。今年の経営情報学部の秋卒業生は14

名で中谷巖学長、牧野駿後援会会长からお祝いの言葉がありました。一方大学院では修士課程19名が修了し、入学式ではMBAコース、CROコース、CLOコース合わせて21名が入学しました。

## 日経テレコン21講習会行われる

2004年10月12日(火)にメディア&インフォメーション・センター(MIC)主催による日経テレコン21の講習会が行われました。日経テレコン21とは日本経済新聞社が提供するビジネス情報サービスで日本経済新聞社の新聞・雑誌記事や企業情報、人事情報といった、レポートや課題制作のために有用な情報が学内であればどこからでも検索できるサービスです。この日は椎木ゼミの学生8名が参加し、今話題の新聞記事や人事情報の検索の方法を学びました。



241教室で行われた日経テレコン21講習会

## TOPIC

### 平成17年度多摩大学入試情報

平成17年度チャレンジ(AO)入試の合格者が10月20日(水)に発表されました。(志願者数18名、合格者数4名)チャレンジ(AO)入試とは、学生の持つ適性や資質を見出し、それを伸ばす教育を理念とする多摩大学ならではの入試で、合格者は入学後に通常授業の他に担当教員による個別指導が受けられます。なお、平成17年度一般推薦入試は願書受付は2004年11月10日(水)まで、一般入試期、センター試験利用入試期の願書受付が2005年1月5日(水)より始まります。

### 就職最新情報： 就職担当教員からのメッセージ

2004年10月25日現在で4年生の就職希望者の内定率は83.9%となりました。(03年同日80.5%最終就職内定率97.9%)このような高い就職率は

学生と教職員の密なコミュニケーションと徹底した就職サポート結果ともいえます。今回は今年から就職担当になった野田稔先生からの「働くことの意義」について、メッセージを紹介します。

「大きくなったら何になりたい?」幾度となく尋ねられてきた質問だ。その答えは男の子だったら野球やサッカーの選手、女の子だったらアイドル歌手やバレリーナといったところだろうか。幼い頃になりましたかから職業を思い浮かべ、なぜそなりたかったかを考えみてよう。「儲かるから」、「安定しているから」といった「生きるために職業選択」ではなかつたはずだ。多分、その仕事を行なうことが楽しそう、かつこよくて気持ち良さそう、そんなところだろう。それが大切。自分の“Will(意思)”が一番なのだ。

では、今はどうだろうか。あなたは何になりたいのか、なぜなりたいのか。

働くという事はただ単に生活の糧を得るためにだけのものではない。人は働くを通じて喜びを感じ、充実感を味わい、成長することが出来る。あなたが就きたい仕事は喜びや充実感、成長実感を与えてくれそうだろうか?多摩大の就職活動は、ただの仕事選びではない。「自分のための舞台選び」であり、その意味で「自分探しの旅」なのだ。

就職担当教員 野田 稔

### 田村学園概要

多摩大学の経営母体である学校法人田村学園は私立学校として積極的に情報開示をしております。最新の田村学園概要は以下の通りになっています。

学生・生徒等(人)	キャンパス面積(m <sup>2</sup> )	
田村学園 全体	4,372	田村学園 全体 109,142
多摩大学 学部	1,451	多摩大学 30,538
多摩大学 大学院	128	その他 78,604
高校(2)・中学(2)・幼稚園(3)	2,793	以上 平成16年5月1日現在
収入(百万円)		
授業料等	1,470	その他 2,983
寄付金	35	5 40
補助金	327	807 1,134
資産運用収入	16	9 25
事業収入	183	11 194
その他	55	142 197
帰属収入合計	2,086	2,487 4,573
基金本組入額	△29	△224 △253
合計	2,057	2,263 4,320
支出(百万円)		
多摩大学	830	その他 1,508 2,338
教育研究費	809	496 1,305
管理経費	237	203 440
借入金利息	0	18 18
その他	18	19 37
合計	1,894	2,244 4,138

以上平成15年度財政収支

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷 巖

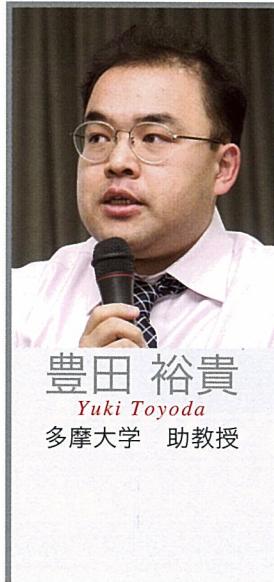
## 一人一人が輝けば世界が輝く！

近頃のニュースで一番凄かったのは、80年間も破られなかった米大リーグの年間最多安打記録がイチロー選手によって破られたことだろう。彼がアメリカ人の対日イメージを大きく変えたことは間違いないが、一人の人間でもこれほど大きなことができるのである。「日本をどうすればよい国にできるか」という議論をしばしば聞くが、実は、最も有効なのは、一人一人の日本人がイチロー選手ほどにはなれなくても、それぞれの分野でそれなりに「輝く」ことなのである。一人一人が輝けば、日本も世界も輝くのである。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一冊メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rappor/>までどしどしあ寄せください。

# 多摩大学 rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



豊田 裕貴  
Yuki Toyoda  
多摩大学 助教授

## Monthly Message 34

自分色を出すシナリオに

「悪い」の反対は「良い」だろうか。このシンプルな質問をまずは考えてみて欲しい。もちろんこの質問への答えは、×。「嫌いじゃなくても好きとは限らない」と同じく、反対が真とは限らない。「なんだ当たり前じゃないか」と思うかもしれないが、現実には、この手の錯覚にしばしば陥ってしまう。マーケティングも用いられる顧客満足について考えてみよう。調査をして何らかの不満点が見つかった。もちろん、先の例と同様「不満足ではない=満足」ではないことは明らかだが、「不満足を解消すれば、満足が得られる」という誤解がしばしば現実味を

帯びてしまう。

さて、話を学生生活に置き換えてみよう。まことしやかに語られるのは、得意科目をのばすより、苦手科目を克服する方が成果が現れやすいという話。これってかなり限定的な場面での話に聞こえないだろうか？もしこの話にずっと縛られてしまえば、いつまでたっても「良い点」に磨きをかける、すなわち自分色を出す気がしなくなってしまう。大学での生活は、自分でシナリオを作ることが魅力。ぜひ、自分色が前面に出せるシナリオを考えて欲しい。

## PROJECT

### 多摩大学学園祭「雲雀祭」行われる

今年で16回目を迎えた多摩大学学園祭「雲雀(ひばり)祭」が2004年11月6日(土)、7日(日)に開催されました。今年も天候に恵まれ地元の子供連れの親子や多摩生、他大学生、高校生など多くの来場者で賑わいました。■

今年多くの模擬店が出店し販売戦略をゼミの活動として行っている野田ゼミ③は韓国チヂミと芋餅を販売。その他中村その子ゼミ④や中川ゼミなどのゼミやサークル⑤も出店。模擬店は学生の熱心な呼び込みで大いに賑わっていました。

日々のサークル活動も多く発表され、演劇サークルサザンクロス⑥、音楽連合⑦、@⑧(アットマーク)など多くのサークル発表が行われていました。

外の芝生ではフリーマーケット⑨が開催され、近隣の方や図書館の学生スタッフの店が並んでいました。その周りではふわふわトランボリンや縁日の店が並び、小さな子供達が走り回っていました。122教室では「Kids英会話」⑩を開催。イングリッシュシャワーの学生スタッフがハロウィンのお化けに扮して子供達に英語の楽しさを伝えました。

公開講座では野田稔先生と元傭兵のテレンス・リー氏による対談、中谷巖学長と若手教授陣による講演「学生達に告ぐ！」⑪が開かれました。

2日目の夕方にはインパルスによるお笑いライブが行われアリーナいっぱいに人が溢れ、多いに盛り上がりました。■



## 世界の若者70人が多摩大生と異文化交流

2004年10月29日(金)に、世界20数カ国から集まった18歳から29歳までの若者約70人が多摩大学を訪れ、およそ60人の多摩大生とともに「特別異文化コミュニケーションプログラム」を行いました。若者たちは、アメリカに本部のある国際教育団体Up With Peopleが企画するWorld-Smartリーダーシッププログラムに参加し、世界各地をホームステイしながら異文化体験をしています。当日は、「多摩の教育施設を活用するには」というテーマで、少子化による統廃合で使われなくなった多摩市内の小・中学校施設の活用法についてグループディスカッションと発表が行われ、4チームが「優秀賞」「フレンドシップ賞」に選ばれるなど、およそ4時間にわたって活発な交流が展開されました。



グループディスカッションの様子

多摩大学フォーラム'04  
多数の企業が参加

2004年11月17日(水)に赤坂プリンスホテル(東京・赤坂)にて『多摩大学フォーラム'04』が行われました。

多摩大学フォーラムは多摩大学と接点のある企業の人事担当の方との交流の場として毎年行われているもので今年で9回目になります。

中谷学長の挨拶の後、河村大学院研究科長による「統合リスクマネジメントの課題」、株式会社リコー法務・知財本部審議役田端泰広氏による「知的財産活動の課題とリコーの取り組み」の講演が行われました。

当日は165名もの参加があり、高い就職率に裏付けられる多摩大学と産業界との強い接点が垣間見られるフォーラムとなりました。



多摩大学フォーラム'04講演の様子

## 多摩大学第3回KTC運動行われる

多摩大学第3回KTC運動が2004年11月11日(木)に行われました。KTC運動は学生と教職員が多摩大学構内と近隣の清掃を行う活動で、毎月行われています。第4回は12月13日(月)に行われます。

## 第1回多摩大学同窓会総会・懇親会行われる

2004年11月7日(日)の学園祭2日目に第1回多摩大学同窓会総会・懇親会が行われました。総会では役員が承認され、同窓会会长には三木智子さん(1期生)が承認されました。

懇親会には同窓生・教職員あわせて約160名が参加し、昔の仲間、恩師と語り合いました。



久しぶりに多摩大学に集まつた同窓生

## TOPIC

2005年度(平成17年度)多摩大学入試情報  
～入試直前説明会＆相談会開催～

チャレンジ(AO)入試、公募推薦入試、指定校推薦入試が終了し、年明けから一般入試Ⅰ期、Ⅱ期、センター試験利用入試Ⅰ期、Ⅱ期が開始します。

また、2005年度(平成17年度)一般入試・センター試験利用入試受験生及び保護者を対象とした入試直前説明会＆相談会を2004年12月18日(土)に開催します。

<2005年度(平成17年度)多摩大学経営情報学部一般入学試験>

試験方式	募集人数	試験科目	願書受付	試験日
一般入試Ⅰ期	90名	●必須科目 英語(英・美)、国語(國・國語) 漢文は除く  ●選択科目 地歴・公民(日本史B・世界史B、政 治・経済・社会)から1科目の範囲から 出題から1科目を選択	1/5(水)～ 1/31(月) ※1/5(水) ～2/4(金)	2/7(月)
一般入試Ⅱ期	20名		2/14(月)～ 3/2(水) ※2/14(月) ～3/4(金)	3/7(月)
センター試験 利用入試Ⅰ期	60名	●必須科目 外國語(英・独・仏・中・韓)から1科 目を選択 国語(國語・国語)から1科目 ※選択科目共古文・漢文を除く	1/5(水)～ 2/7(月) ※1/5(水) ～2/7(月)	1/15(土)
センター試験 利用入試Ⅱ期	10名	●選択科目 外國語以外でセンター試験に おいて受験できる科目から2科 目選択	2/14(月)～ 3/7(月) ※2/14(月) ～3/7(月)	1/16(日)

願書受付期間の※はインターネット出願可能期間

## &lt;チャレンジ(AO)入試、一般推薦入試、指定校推薦入試応募状況&gt;

募集人数	チャレンジAO入試	一般推薦	指定校推薦
10名	10名	30名	40名
志願者人数	18名	55名	45名

説明会＆相談会では今泉忠学部長による『「現代の私塾」多摩大学での学び方』をはじめ、『就職率98%を生み出す多摩大式キャリア支援体制』『2005年度一般入試・傾向と対策』『入試・学生生活なんでも相談会』など様々なプログラムを用意しています。詳細情報は多摩大学ホームページをご覧下さい。(多摩大学HP:<http://www.tama.ac.jp/>)

## SE就職合同セミナー'05 開催

2004年12月17日(金)に多摩大学品川サテライ  
トキャンバス(品川インター西ティA棟27階)にて  
『SE就職合同セミナー'05』を開催します。

SE就職合同セミナーは多摩大学が主催し、早稻  
田、中央など本学を含む11大学の就職を控えた  
SE希望の3年生を対象に行うものです。企業の採

用担当者にも好評で、4年目の今年の参加企業数  
は情報サービス業を中心に23社もの参加があります。昨年より多くの学生の参加が期待できます。

## 多摩大学大学院説明会・イベント情報

多摩大学大学院説明会が2004年12月21日(火)  
に行われます。大学院説明会は多摩大学大学院の  
入学を希望する社会人を対象に行います。多摩  
大学大学院経営戦略コース(MBA)に加え、2つの専  
門コース“統合リスクマネジメントコース(CRO)・  
ロジスティクス経営コース(CLO)”を紹介します。  
その他中谷巖学長の特別講演も行います

大学院では説明会の他、実際の授業を体験する  
ことができる公開講座と社会に注目されている  
分野の第一人者を招聘し、スピーカーからのスピー  
チの後ディスカッションを行う『TGS Speaker's  
Corner Tokyo』を行っています。日時・詳細  
は大学院ホームページをご覧下さい。

多摩大学大学院:<http://tgs.tama.ac.jp/>

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷 岩

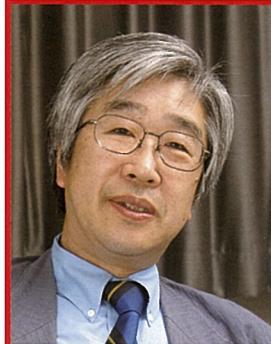
## 他人との距離感

ある人類学者の話。他人との心理的距離という観点でみると、日本人は、自分の属しているグループのなかでは他人との距離はきわめて近いが、一歩そこから出たとたん、他人との距離が急激に遠くなるという。組織のなかでは礼儀正しく素晴らしい人なのに、組織の外ではろくに挨拶もできない閉鎖的な人間になるというのである。これでは村社会そのものだし、国際的コミュニケーションの点でも問題だ。自分の所属するグループ外でも、オープンな気持ちで人と接することができる社会性のある人間になりたいものである。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについて  
ご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せください。

# 多摩大学rapport

RAPPORT(ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。



**諸橋 正幸**  
Masayuki Morohashi  
多摩大学 教授

## Monthly Message 35

### 日本の独自性と国際競争

日本の独自性という言葉を使うとき、多くの日本人は、能、歌舞伎、浮世絵といった特に江戸期に隆盛を極めた日本独自の文化を思い浮かべる。それと同時にこのような日本文化は、日本人にしか理解できないものと考えがちである。こうした考え方では、しばしば技術の世界でも幅を利かせることがある。ITの世界でも、特に文字や言語に絡む技術では、日本で開発するのが当たり前と思われてきた。NECの98シリーズパソコンが日本市場で永らくトップの座にあった時、我々もそのことを何となく信じていた。しかし、少なくとも技術の世界では、その基になる理論が分かってくると独自性という言葉が甚だ怪しくなってくる。事実、漢字の表記に用い

られた2バイトコードは中国語、タイ語、アラビア語など多くの言語の文字表記でも応用可能なことが分かり、ユニコードという形で体系化が進んでいる。だが、このことは逆に、理論体系さえしっかりとすれば、どこの国の文化を担う技術でも使いこなせるということを意味する。筆者も、8年ほど前になるが、日本語文を対象にした情報分析システムをインドのソフトウェア技術者と一緒に開発した経験があるが、日本語の壁を意識したこととはほとんどなかった。日本語や日本文化に絡むシステムは日本人にしかできないという慢心は、世界の優秀な技術者に会えば一瞬のうちに碎かれてしまうことを肝に銘じるべきである。

## PROJECT

### イングリッシュシャワー プレゼンテーションフェスティバル開催

2004年12月11日(土)にイングリッシュシャワー1年生のプレゼンテーションフェスティバルと2年生のビジネスプレゼンテーションフェスティバルが開催されました。

イングリッシュシャワーとは多摩大学オリジナルの英語教育プログラムです。授業は25人程度の少人数制で日本語厳禁の英語のみの授業が展開されます。1年次は会話を中心のコミュニケーション能力を身につけるプログラムや英語で自分の考えや意見を表現するための能力を身につけるプログラムを開設しています。2年次にはESP(経営情報学の基礎となる専門的・実践的な英語)を学びます。

午前中に行われた1年生のプレゼンテーションフェスティバルのテーマは「日本の魅力と課題」です。各クラスの選抜を経た18チームがリサーチ、プレゼンテーションの練習を重ね、1年生全員が見守る中「相撲について」「日本の伝統的な服飾について」など様々な内容を英語のみで発表しまし



着物を着たり、袴を着る手順を実演するチームもあった

た。発表チームの中には実際に浴衣や、袴を着てよりわかりやすいプレゼンテーションを行うチームもありました。

午後には2年生のビジネスプレゼンテーションフェスティバルが行われました。2年生は興味のある企業を選び、研究史、さらにはその企業の発展に貢献できる新商品の開発を試みました。企画には、経営基礎等の授業で学んだ知識を取り入れ、現実的なものになるように工夫しました。各クラスの選抜を経た17チームが発表を行い、ソニー、ナイキ、良品企画といった企業について英語でプレゼンテーションを行いました。

### 斎藤ゼミ神崎伸義君 ホームページグランプリで受賞

「学術・文化・産業ネットワーク多摩」が主催した「学生がつくる!! 中小企業ホームページグランプリ」に多摩・武蔵野地域の20大学85人の学生が参加し、斎藤ゼミの神崎伸義君(4年生)がプラスチックレンズメーカー「マイルストーン」のホームページを制作して見事グランプリを受賞しました。2004年12月7日(火)には多摩中央信用金庫本店で授賞式が行われました。多摩大学からは他に2チーム4名が参加しそれぞれ企業賞を受賞しました。

神崎君は2004年7月頃から府中市にあるマイルストーン社を数回にわたって訪問。担当の綿貫拓也さんに取材し、意見を聞きながら企業紹介のホームページを2ヶ月間で制作しました。斎藤ゼ

ミで3DCGの研究をしている神崎君は「実際に大学の研究でやっているデザインと違ってクライアントの要望と見てくれるユーザの視点に立ったホームページ制作を行いました。このような機会は大学内だけでは体験することはできないのでとても貴重な体験でした。」と語りました。

授賞式にはマイルストーン社の綿貫拓也さんも出席し、「はじめてこのホームページを見させてもらった時は社員みんなすばらしいと思いました。少人数の会社で神崎君のような大学生と接することができ私たちもいい刺激になりました。」と授賞の挨拶をしました。神崎君は今後もマイルストーン社のホームページ制作にかかり、卒業後もグラフィックデザインの勉強を続けていくということです。授賞したホームページは多摩中央信用金庫ホームページで見ることができます。

<http://www.tamahp-gp.jp/result/43/01/index.htm>



授賞した神崎君(右)とマイルストーン綿貫拓也さん(左)

## 3年生就職業界研究会行われる

2004年11月24日(水)から30日(火)の間、3年生を対象に業界研究会が行われました。業界研究会とは就職活動を前に様々な業界の人事担当や卒業生を招き業界の動向や特徴、就職への考え方を伝えるものです。今年はJTB、プリンスホテル、オンラインドリーム山、大正製薬等、10業種の企業の説明・講演が行われました。また、特別講座としてコンサルティング業務も実際に実行している就職担当の野田稔助教授による講演「コンサルティング」という仕事も行われました。



就職業界研究会の様子

## 多摩大オープン決勝戦行われる

2004年12月1日(水)に多摩大オープン決勝戦が行われました。多摩大オープンは多摩大生によるテニスのトーナメント戦で男子ダブルス、女子ダブルス、ミックスダブルスがそれぞれ行われま

した。男子ダブルスは溝口裕基・富田邦彦ペア、女子ダブルスは武藤里奈・上野純子ペア、ミックスダブルスは明田智臣・武藤里奈ペアが優勝しました。



多摩キャンパス室内アリーナで行われた決勝戦

## 多摩大学第4回KTC運動行われる

多摩大学第4回KTC運動が12月13日(月)に行われました。KTC運動は学生と教職員が多摩大学構内と近隣の清掃を行う活動で約40名の参加がありました。第5回は1月13日(木)に行われます。

## 公開講座開かれる MIC公開セミナー、コミュニティカレッジ

メディア&インフォメーション・センター主催の公開セミナー『初めてでもできる！Wordで簡単「チラシ」づくり』が2004年11月20日(土)に開催され、15名が参加しました。また、多摩大学総合研究所主催のコミュニティカレッジ『パソコンで写真入り年賀状を作ろう』が去年に引き続い

て2004年11月27日(土)、12月4日(土)に開催され、18名が参加しました。それぞれ出原至道助教授が講師を務め、わかりやすい説明に「次回も是非参加したい」という参加者の声が多く聞かれました。



MIC主催公開セミナーの様子

## アルコール・パッチテストキャンペーン実施

2004年12月8日(水)～10日(金)にアルコール・パッチテストキャンペーンが実施されました。忘年会などお酒に接する機会が多くなるこの時期に自らのアルコールに対する体質を知り、上手にお酒とつきあうために実施され、学生、教職員あわせて441名が参加しました。



多くの学生が参加したアルコールパッチテスト

## TOPIC

### 経営情報学部入試願書受付開始

2005年度(平成17年度)一般入試期、センター試験利用入試期の願書受付が2005年1月5日(水)から始まりました。郵送での出願のほか、インターネット

&lt;2005年度(平成17年度)多摩大学経営情報学部一般入学試験&gt;

試験方式	募集人数	試験科目	願書受付	試験日
一般入試期	90名	●必須科目 英語(英・英訳)、国語(国・国語古文漢文は除く) ●選択科目 地理・公民(日本史B・世界史B・政經)、数学(数A・数B・数Cの範囲から出題)から1科目を選択	1/5(水)～1/31(月) ※1/5(水) ～2/4(金)	2/7(月)
一般入試期	20名		2/14(月)～ 3/2(水) ※2/14(月) ～3/4(金)	3/7(月)
センター試験利用入試期	60名	●必須科目 外国語(英・独・仏・中・韓)から1科目を選択 国語(国語・国語I)から1科目。沿革科目(古文・漢文を除く) ●選択科目 外国語以外でセンター試験において受験できる科目から1科目を選択	1/5(水)～ 2/7(月) ※1/5(水) ～2/7(月)	1/15(土)
センター試験利用入試期	10名		2/14(月)～ 3/7(月) ※2/14(月) ～3/7(月)	1/16(日)

願書受付期間の※はインターネット出願可能期間

トでも願書受付が可能ですので是非ご利用下さい。また、多摩大学ホームページでは「ここが知りたい！」一般入試・センター試験利用入試として経営情報学部入試の詳しい情報・よくある質問等を公開しています。是非ご覧下さい。

### Speaker's Corner 新春講演会開催

2005年1月11日(火)に多摩大学品川キャンパス(品川インターナショナルスクール27階)にて多摩大学大学院主催のSpeaker's Corner Tokyo 2005新春特別講演会を開催します。

これはロンドン・ハイドパークで毎週日曜日に行われている「Speaker's Corner」を東京にもオープンさせようという斬新な試みです。今回はジャーナリストの松尾文夫氏をお招きします。詳細はホームページをご覧下さい。(http://tgs.tama.ac.jp)

### 新潟県中越地震の経済的支援措置について 経営情報学部生、多摩大学を受験される方

「新潟県中越地震」の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。多摩大学では、このたびの「新潟県中越地震」の災禍による家計急変のため、経済的に就学が困難になった学生及び、平成17年度経営情報学部入試受験生に対して「新潟県中越地震」の被災状況に応じ次のような特別措置を講じます。

1. 経営情報学部在学生
  - 平成17年度の授業料を半額免除
  - ※詳細及び適用条件については学生支援センター学生生活グループへお問い合わせ下さい。
2. 平成17年度経営情報学部入試受験生
  - 平成17年度入学金を半額免除
  - 平成17年度の授業料を半額免除
  - 出願書類の取り扱いなど受験に支障をきたさないよう配慮します。
  - ※詳細及び適用条件についてはホームページ又はフロンティアセンター入試・広報グループまでお問い合わせ下さい。

## 中谷巖の痛快日記

多摩大学学長 中谷巖

### 受験校選択の基準

受験の季節。大学選択で迷っている受験生も多いことだろう。何を基準に選べばよいか。先輩が行っているとか有名私大だからとか、いろいろ理由があるが、一番大事なのは、その学校が「自分をとことん鍛えてくれる学校かどうか」というポイントだ。有名校さえ卒業すれば良かった時代は遠い昔の話。これからは「本質的なものの考え方ができる」「それを論理的に展開できる」「当事者意識を持って行動に移せる」といった基本的能力が求められていると思う。そういう力をつけてくれる学校かどうか。それこそが受験校選択の基準でなければならない。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一言メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想をhttp://www.tama.ac.jp/rappor/までどしどしお寄せください。